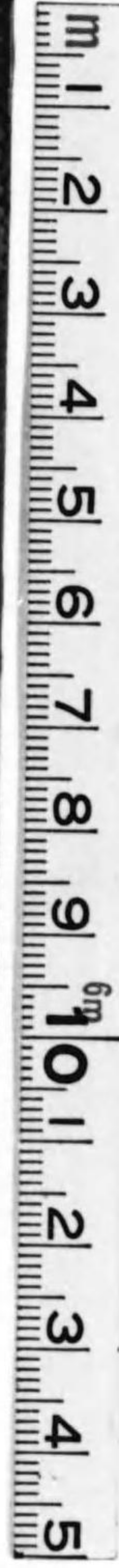


特232

407

伊那郷土史年表

飯島小學校



始



◆伊那郷土年表について

一、本年表は小學國史を取扱ふに當つて必要な、郷土史料を簡便に得んが爲に編したものである。而して他に、各項目に就いての明細な解説書が必要である。

一、小學國史に直接關係を持つて取扱はるべきもの、他に、諏訪、上伊那、下伊那の大切な史料は加へることとした、尙信濃としての重要な史實の幾分をも加へて置いた。

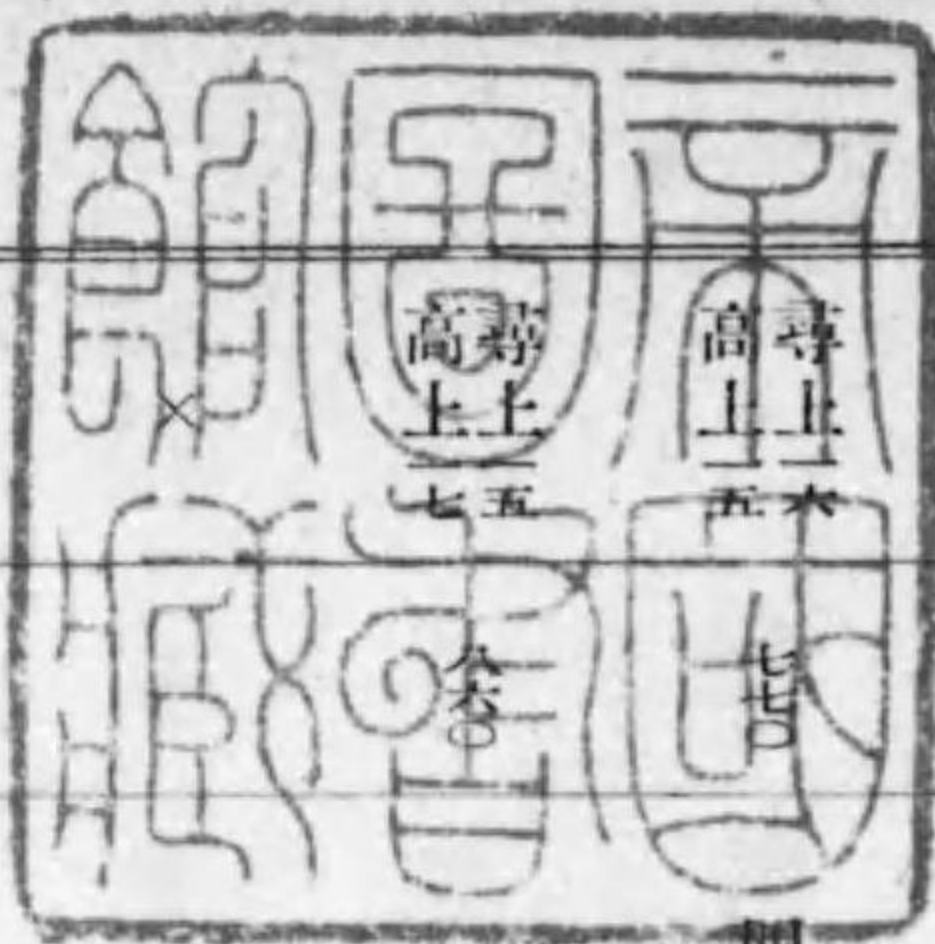
一、上欄の教科書参照頁は、昭和四年版の國史教科書に據つたものである。教科書との連絡については項目のすべてが必ずしも必要ではない、御活用を願ふ次第である。

一、實際に取扱つて何かと氣付かれた点や、史實の研究によつて修正を要すべき点は編者に御知らせを願つて他日完全なものにしたいと希つてゐる。

昭和十年一月

飯島小學校尋常科五學年學年會





教科書 参照頁	皇紀	年號	天皇	摘	要
高上四 高上二			崇神	建御名方命 ^{スツ} 洲羽 ^{スツ} に入り給ふ (古事記)	
高上五 高上六		四〇	景行	日本武尊御東征の歸途諏訪伊那を通過し給ふ (古事記 日本書紀)	
高上七 高上八		九	仲哀	神功皇后新羅を伐ち給ふ時諏訪明神、住吉明神兵船を守護す (諏訪大明神繪詞)	
高上九 高上十		八	孝德	二月 朝廷錦を諏訪明神に奉る (上社本類從國史)	
高上十一 高上十二		大化四	孝德	四月 越後磐舟 ^{イサフネ} 欄 ^サ を修め越後信濃の民を欄 ^サ 戸 ^コ とす (日本書紀)	
高上十三 高上十四	一三六	大化四	天武	十月 信濃國 ^{フカマ} 東間の地に行宮を造らしめ給ふ (日本書紀)	

高上二	一三一	持統	八月 賴使を遣はし須波神、水内神を祀り給ふ (日本書紀)
×	一三三	文武	十二月 初めて美濃國岐蘇の山道を拓く (續日本紀)
尋上五	一三六	元明	小治田朝臣を信濃國司に任ぜらる 當時の國府は松本近傍に在り (上伊那郡史)
高上三	一三四	全	十月 詔して尾張上野信濃越後等の民二百戸を出羽の柵戸に配す (續日本紀)
×	一三一	元正	六月 信濃國を割きて諏訪國を置く (續日本紀) 當時大田切川以北の伊那は諏訪國に屬せり
高上三	一三四	聖武	三月 諏訪國を流罪の中流國に定む (續日本紀)
×	一三二	全	三月 諏訪國を廢して信濃國に合す (續日本紀)
×	一三九	全	正月 信濃國より白髮の神馬を朝廷に獻ず (續日本紀) 是より駒ヶ岳の名起れりとの説あり (上伊那郡史)

尋上四	一四〇	聖武	三月 諸國に詔して國分寺を建てしめ給ふ (續日本紀)
高上四	一四五	孝謙	二月廿二日 信濃國防人及主帳の歌万葉集に加ふ (萬葉集)
高上四	一四八	全	寂光寺(座光寺)信濃國定額寺の一として創建せらる (上伊那郡史)
×	一四八	稱徳	伊那郡池田舍人、千世比賣が貞節を守りて褒賞せらる (上伊那郡史)
尋上六	一四六	全	正月 金刺舍人八麻呂伊那郡司となり四五十年の間職に在りて練達の人なり (上伊那郡史)
尋上五	一四六	桓武	坂上田村麻呂東征の途諏訪明神に祈願す (諏訪大明神書詞)
尋上三	一四六	平城	傳教大師東國御巡行神坂峠を越ゆ
×	一四七	嵯峨	金刺舍人八麻呂信濃の牧主伊那大領となり其の進達文によつて駒の出産數に對して責任を負ふべき事が決せられたり (上伊那郡史)

尋上五三 高上五五	尋上六二 高上六三	×	×	×	×	尋上七〇 高上七三	×
一四七五	一五〇二	一五二〇	一五六一	一五六六	一五九二	一六〇〇	一六〇七
弘仁六	承和九	貞觀二	延喜元	全五	承平頃	天慶三	天曆(頃)
嵯峨	仁明	清和	醍醐	全	朱雀	全	村上
最澄東國布教の節信濃を過ぎ諏訪明神の加護にあづかる (叡山大師傳)	五月 諏訪明神に従五位下を授けらる (續日本紀)	國司をして驛民に驛子逃散なき様布告す (上伊那郡史)	八月 延喜式を制定す諏訪上下社式内に編入せらる (延喜式)	阿智神社、大山田神社(下伊那)延喜格に入る (上伊那郡史)	信濃國司に紀文官(藤原陳忠)在り私田を占有し紀文大臣の稱あり (今昔物語)	正月 諏訪明神正一位に叙せらる (諏訪大明神妻詞)	伊那郡 <small>ホスナ</small> 輔衆郷 <small>ホスナ</small> に屬す (大日本地名辭典)

尋上七〇 高上七五	尋上七三 高上七六	尋上七六 高上七九	尋上七九 高上八二	尋上八二 高上八五	尋上八五 高上八八	尋上八八 高上九一	×
一七二六	一七三三	一七四〇	一七四七	一七五四	一七六一	一七六三	一六〇七
天喜(頃)	康平五	寛治元	寛治元	長治元	全	全元(頃)	天曆(頃)
後冷泉	全	堀河	堀河	全	全	全	村上
信濃源氏興る(源爲公) (尊卑分脈)	九月 前九年の役平ぐ 上社大祝諏訪爲仲源義家の軍に従ふ (神氏系圖)	源爲公、源義家に従ひて戦功あり (尊卑分脈)	十二月 後三年の役平ぐ 諏訪爲仲義家の軍に従ふ (神氏系圖)	源爲公伊那領となり神の平城主となる、是れ伊那源氏の祖なり(尊卑分脈)	前九年の役の叛將安部貞任の子仙千代下伊那松岡城に移住せり (市村氏郷土史講話)		

尋上八二 高上八四	×	尋上八七 高上八五	尋上九五 高上八九	尋上九六 高上八九	尋上九九 高上八九	尋上〇〇 高上九〇	尋上〇六 高上〇九
一八二六	全(頃)	一八一九	一八四〇	全	全	一八四四	一八四七
保元元	全	平治元	治承四	全	全	全	全
後白河	全	二條	高倉	全	全	全	全
片桐小八郎景重(舟山城主)義朝十七騎に屬し白河殿にて爲朝の衛に當り 手取の與次を敗る (平家物語)	伊那郡鹽田の庄(中澤村、伊那村)は最勝光院(後白河天皇御建立の寺)領 として下賜せらる (皇室御料と土地人民)	片桐景重、平治の亂に待賢門にて六波羅軍の將重盛と戦ふ (平家物語)	八月 源頼朝舉兵、九月平井弓、宮處、岡仁谷、龍布を諏訪上下社に寄 進す (吾妻鏡)	九月 源義仲舉兵、金刺、諏訪、千野氏等是れに従ふ (長門本平家物語、源平盛衰記)	九月、大田切城主菅冠者友則(平氏に屬し春近庄を領有す)武田信義と戦 ひて戦死す (吾妻鏡)	手塚光盛越前篠原に齋藤實盛を討取る (源平盛衰記)	片桐兵庫頭爲行の三男治郎大夫飯島爲綱舟山城より飯島の地に居城を構 へ飯島氏を稱す 承久の亂には小笠原長清に屬したり(西岸寺奉澤雜記)

尋上〇六 高上〇九	×	尋上〇六 高上〇九	尋上八七 高上八七	尋上九九 高上九〇	尋上〇〇 高上九〇	尋上〇六 高上〇九	尋上〇六 高上〇九
一八四六	×	一八四四	一八四四	一八四四	一八四四	一八四四	一八四七
全	文治二	全	全	全	全	全	全
全	全	後鳥羽	全	全	全	全	全
八月 諏訪盛澄流鏑馬の名手として著れ源頼朝に仕ふ (吾妻鏡)	源頼朝守護地頭を置き、小笠原長清信濃守護職として松尾城に居住す (上伊那郡史)	三月 諏訪社領八條院御領として保護さる (吾妻鏡)	頼朝地方施政を致し、片桐爲安本領安堵して舟山城に居住す(上伊那郡史)	六月 笠原頼直高遠城を修築して神の平より移住す(平氏に屬す)(高遠記集成)	諏訪社領平頼盛の莊園たり (吾妻鏡)	一月 樋口兼光、千野光弘京都四ツ塚に討死す (源平盛衰記)	一月 源義仲、今井兼平、手塚光盛等近江國栗津ヶ原に討死す (長門本平家物語 源平盛衰記)

尋上 _{一〇六} 高上 _{九七}	尋上 _{一〇六} 高上 _{九六}	尋上 _{二〇} 高上 _{二七}	×	×	尋上 _{二四}	×	高上 _{二五}
一八五三	一八五七	一八一	一九〇八	一九二	一九三二	一九二四	一九三八
建久三	全 八	承久三	寛治二	建長三	弘長元	文永元	弘安元
後鳥羽	全	仲恭	後深草	全	龜山	全	後宇多
源頼朝征夷大將軍に任じ鎌倉幕府を創設す (國史辭典)	源頼朝淺間山麓に狩し、又善光寺に參詣す 是の時、辰野藥師、文明寺瑠璃寺等に祈願す (吾妻鏡)(上伊那郡史)	五月 承久の變に仁科盛遠、大妻兼澄等宮方に加はり、諏訪信重、千野六郎等北條氏の軍に加はる (承久記)(吾妻鏡)	六月 諏訪盛重執權北條時頼に仕ふ (吾妻鏡)	小井亘能綱、師能等小井弓を領す (鎌倉幕府下知狀)	正月十一日 知久信貞射手の妙として征夷大將軍宗尊親王に撰ばれ十四人中の一人となる (上伊那郡史)	知久信貞(上久賢)文永寺を創建す (伊那神社佛閣記)	建長寺大覺禪師は飯島氏の歸依に依りて來りて西岸寺を創建す(西岸寺文書)

×	×	高上 _{二四}	×	尋上 _{二三} 高上 _{二三}	×	尋上 _{二五} 高上 _{二二}	高上 _{二六} 尋上 _{二六}
一九五三	一九五四	一九六〇	一九六八	一九七三	一九七六	一九九三	一九九二
永仁元	全 二	正安二	延慶元	正和二	全 五	元弘二	全 三
後伏見	全	全	花園	全	全	後醍醐	全
五月 知久敦幸諏訪上社に普賢堂を建つ (知久家々譜)	知久敦幸諏訪上社に五塔及梵鐘を奉獻す (知久家々譜)	五月 金刺滿貞僧一寧を招請して茲雲寺を開く、金刺滿貞の一子一了宗の國に留學す (雪村大和尚行狀記)	赤穂光前寺靈大早太郎遠州見付天神社に於て老狝を斃し人身御供の患を除く (赤穂文化史年表)	宗良親王御誕生	四月 遠州見付天神社の僧來りて靈大早太郎報恩の爲大般若經、六百卷を書寫して光前寺へ奉納す (光前寺分限帳)	二月 村上義光父子吉野に忠死す (大平記)	五月 北條氏一黨滅亡の時諏訪直性天晴なる最後を遂ぐ (大平記)

高上一三六	一九三	元弘三	後醍醐	五月 諏訪盛高、北條時行を信濃上社大祝の許に隱匿す (大平記)
高上一三三	一九五	建武二	全	七月 諏訪頼重、時繼父子北條時行を擁して信濃に舉兵、武藏女影原に足利直義の軍を破り鎌倉に入る (梅松論 市川文書)
高上一三二	一九五	全	全	八月 諏訪頼重、時繼父子足利尊氏と伊豆大御堂に戦ひて敗死、時行遁れ去る (梅松論)
高上一二七	一九六	延元元	全	藤澤行親、足利尊氏に黨し功あり箕輪六郷に封ぜらる、福興城を修築して居住す (上伊那郡史)
高上一三三	一九八	全三	全	六月 諏訪頼繼北條時行と共に伊那郡大徳王寺城に據り小笠原貞宗と戦ふ (諏訪史料叢書)
高上一二二	一九九	全四	後村上	片桐孫三郎爲幸赤須城を築く (赤穂文化史年表)
高上一五二	二〇三	興國四	全	足利氏諸國に安國寺を起さしむ (後鑑)
				諏訪圓忠室町幕府の守護奉行、天龍寺造營奉行となる (建武式目追加後鑑)

高上一三三	二〇四	興國五	後村上	宗良親王信濃伊那郡大河原の香坂高宗の許に在し、此の頃諏訪下社に祈願し給ふ (李花集 新業和歌集 菅正友全集)
高上一三三	二〇二	全七	全	一月 諏訪隆種甲斐文須澤城に高師冬を討つ (市川文書 大平記)
高上一三三	二〇五	全一〇	全	二月 諏訪、滋野の一派宗良親王を奉じて新田義興等と共に足利尊氏と武藏笛吹峠に戦ひて敗る (大平記)
高上一三三	二〇五	全(頃)	全	高遠太郎源義親高遠城主となりて來り治す (木曾略系 高遠記集成)
高上一三三	二〇五	全	全	八月 矢島正忠等宗良親王を奉じて仁科氏等と共に小笠原長亮と桔梗ヶ原に戦ふ (諏訪史料叢書)
高上一三三	二〇五	全	全	鑄物師藤原朝長、息庵、都菅堅敬等高遠柱泉院の梵鐘を鑄る (柱泉院梵鐘の銘)
高上一三三	二〇六	全二	全	諏訪圓忠諏訪大明神縁起書詞を著す (大明神畫詞奥書)
高上一三五	二〇九	全四	全	十二月 足利義詮天下靜謐を諏訪下社に祈願す (諏訪史料叢書)

高上一三三	三〇三	貞治元	後村上	新田一族、守永王(宗良親王御子)を大河原に擁し奉り小笠原氏に攻められて波合に戦死し給ふ (上伊那郡史)
高上一三三	三〇九	應安二	長慶	十月 大河原、宗良親王の御所を上杉彈正少弼朝房、畠山右衛門佐基國二將聯合襲撃して兩軍利あらず、之より官方の勢風衰ふに至る (上伊那郡史)
高上一三三	三〇九	康暦三	後龜山	宗良親王大河原を御退去、河内國に赴き給ふ (上伊那郡史)
高上一三三	三〇八	元中二	後小松	宗良親王井伊谷に薨去し給ふ (上伊那郡史)
高上一三五	三〇五	明德三	全	南北朝合一す (國史辭典)
×	三〇五	全元	全	下條氏甲州より來住し永正の頃南方信濃に一大勢力を致す(伊那尊王思想史)
×		應永(始頃)	全	二月十五日付赤須城主赤須爲幸の赤須郷公田、惣田數目録現在す (南信濃)
高上一三三	三〇五	全	全	高遠太郎家親官方に屬して功あり、讃岐守に補せられ本領、木曾、高遠築麻、洗馬を賜る (高遠記集成)

×	三〇六	應永三	後小松	小笠原長秀信濃守護となる (上伊那郡史)
×	三〇六	全七	全	十月 大塔の戦 小笠原長秀に従ひて出陣せる伊那衆は宮田以南の武士三百有餘人也、飯田入道、常葉入道、坂西、赤須、名古、片桐、宮田、小田切、飯島氏等隨從の武士多くは戦死せりと云ふ (上伊那郡史 大塔物語)
×	三〇六	全	全	十月十七日 赤須孫三郎國守小笠原長秀に従ひて北信鹽崎城に籠城す (大塔物語)
×	三〇七	全三〇	全	岩間兵部少弼 飯島村岩間百五十貫文に封ぜらる (上伊那郡史)
×	三〇九	全(頃)	全	飯島若狭守源爲綱小笠原氏に屬し本郷城に居住す、隨從の郷士は田切に和田金右エ門、中平に中平兵衛、飯島に飯島丹波、平澤左近、林三左エ門等である (飯島村史料)
×	三〇九	永享二	全	正月 結城氏足利持氏の末子永壽丸を擁して小笠原政康を大將として南信濃の武士多数を隨へて出陣す (結城番帖)
×	三〇三	嘉吉三	後花園	諏訪湖の御渡を幕府に注進す (諏訪史料叢書)

高上 _{一六五} 尋上 _{一六五}	高上 _{一六二} 尋上 _{一四六}	×	×	×	×	×	高上 _{一六〇}	高上 _{一五九} 尋上 _{一五九}
二四三	二三〇	二二七	二二六	二二六	二二五	二二五	二〇九	三〇九
全 一五	文明二 全	應仁元 後土御門	全	全	寛正二 全	全	全	寶徳元 後花園
一月 郡守諏訪政満上社諏訪繼満の爲に害せらる (諏訪史料叢書)	十月十四日 足利義政諏訪上社に國家靜謐を祈願す (諏訪史料 足利義政願文)	小笠原氏の相續争ひ起り續いて應仁の亂起る (伊那史料叢書)	飯島大和守爲宗、飯島城主たり (諏訪御符禮の古書)	赤須伊勢守爲康、赤須郷地頭たり (諏訪御符禮の古書)	勝間龍勝寺の開山僧雪僧一純同寺に鑑住す (龍勝寺文書)	六月 古河公方足利成氏上杉氏政略の爲千野氏を誘ふ (諏訪史料)	四月二十九日 諏訪上下社々家争の爲一字も残らず焼失す (諏訪史料)	

高上 _{一七二} 尋上 _{一六四}	高上 _{一七二} 尋上 _{一六四}	高上 _{一六六} 尋上 _{一六六}	×	×	×	×	×	高上 _{一六六} 尋上 _{一六六}
二九一	二八八	二八〇	二七九	二六四	二六二	二五三	二五三	二五三
全 四	京祿元 後奈良	全 一七	全 一五	全 一五	文龜二 後柏原	明應二 全	全	全
四月十二日 諏訪頼満甲斐に討入り鹽河に戦ふ (諏訪史料叢書)	八月二十六日 諏訪頼満武田信虎と諏訪郡の神戸、堺川等に戦ふ (諏訪史料叢書)	北條早雲甲斐政略の爲千野氏を誘ふ (諏訪史料叢書)	十一月二十三日 諏訪下社金刺昌春上社々家と戦ひて大敗す (諏訪史料叢書)	高遠氏九十年の後高遠左衛門尉義久の時亡ぶ (高遠記集成)	知久氏と坂西氏と座光寺原に戦ふ (伊那史料叢書)	池上左エ門大夫政清棟梁として三子と共に三義村遠照寺釋迦堂多寶塔を造る (多寶塔探銘)	正月四日 松尾家小笠原定基、鈴岡家小笠原政秀を殺害す (伊那史料叢書)	

高上一七二 高上一六三	尋上一七三 高上一六三	×	尋上一七三 高上一六三	尋上一七三 高上一六三	尋上一七三 高上一六三	高上一七四 高上一六四
三九五	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇四
天文四	全(頃)	全九	全二	全	全	全三
後奈良	全	全	全	全	全	全
<p>諏訪頼満武田信虎と堺川に和を結ぶ (諏訪史料叢書)</p> <p>保科築後守源正則 高井郡保科村城主より天文年間藤澤村御堂垣外へ移る武田信玄に味方し百二十騎の將たり</p> <p>大風雨襲來す (上伊那郡史)</p> <p>十一月三十日 武田晴信の妹彌々御料人諏訪頼重に嫁す (諏訪史料神使御頭日記)</p> <p>七月 武田晴信高遠頼繼と通じて諏訪頼重を討つ、上原、桑原兩城陥る (諏訪史料叢書 守矢頼眞書留)</p> <p>七月二十日 諏訪頼重甲府に到りて遂に自刃、諏訪氏滅亡す (諏訪史料叢書)</p> <p>武田氏上原に城代を置き、後政廳を岡村に移す (諏訪史料叢書)</p> <p>鐵砲傳來す 武田氏高壓的武斷を以つて諸豪を摺伏せしむ</p>						

高上一七三 高上一六三	×	高上一七五	×	高上一七三 高上一六三	×	高上一七三 高上一六三
三〇五	三〇五	三〇九	三〇九	三〇八	三〇九	三〇九
天文四	全	全	全一八	全一七	全	全
後奈良	全	全	全	全	全	全
<p>武田信玄、伊那福興城主藤澤頼親を討ち之を亡す (南信濃)</p> <p>己午の飢饉、當時焼飯二勺金一兩二分の相場あり (赤穂文化史年表)</p> <p>七月十九日 武田晴信小笠原長時を鹽尻峠に破る (諏訪史料叢書 御頭日記)</p> <p>千村内匠木曾氏の高遠城代となる (伊那記)</p> <p>七月 天主教鹿兒島に入る (國史辭典)</p> <p>七月四日 千村内匠、保科彈正等武田晴信勢と戦ひ敗走して高遠城に籠り武田勢の包圍を受けて彈正等木曾へ落ち行きたり (上伊那郡史)</p> <p>溝口左馬助氏長は小笠原信濃守政長の三男にして美和村溝口下の城を築く、諏訪の社領に屬し六世の孫氏友天文十八年に下伊那郡松尾に移る (高遠記集成 伊那温知集)</p>						

尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三
三〇九	三〇九	三〇九	三〇九	三〇九	三〇九	三〇九
天文二八	天文二八	天文二八	天文二八	天文二八	天文二八	天文二八
後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良
<p>非持三郎享祿、天文年間美和村非持に住す、始諏訪社領に屬し、後諏訪頼茂の旗本となり、天文十八年武田の將士亂入の節青柳峠に防戦す <small>(高遠記集成)</small></p> <p>十月六日 武田晴信甲斐より諏訪に到る路次を修理す <small>(諏訪史料叢書十四卷)</small></p> <p>八月 葛尾城陥り村上義清越後に走り上杉謙信に據る <small>(川中島戰史)</small></p> <p>八月 川中島の戦始る(前宵戰) <small>(川中島戰史)</small></p> <p>八月十六日 後奈良天皇御筆の般若心經を諏訪上社に奉りて祈禱し給ふ <small>(諏訪史料叢書)</small></p> <p>守矢頼眞、矢島重綱等朝廷に献金す <small>(諏訪史料叢書 禁中御修理料進献目錄)</small></p> <p>十一月二十六日 後奈良天皇御筆「諏訪正一位南宮法性大明神」の御神名を諏訪上社に賜ふ <small>(諏訪史料叢書第四卷)</small></p>						

尋上二七三 高上一六四	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三	尋上二七三 高上一六三
三二四	三二四	三二四	三二四	三二四	三二四	三二四
全 三三	全 三三	全 三三	全 三三	全 三三	全 三三	全 三三
後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良	後奈良
<p>八月 武田晴信は小笠原長時を下伊那松尾城に攻める</p> <p>八月七日 城陥る、之より前侍大將座光寺、松岡、下條、知久は合議の上降参したり <small>(南信濃)</small></p> <p>片桐安藝守(舟山城主)晴信に降り軍役十騎の將として甲府に勤め地戦二十騎、總兵百人出勢なりと <small>(龜屋覺書)</small></p> <p>八月十五日 武田晴信知久氏を政め文永寺、阿島養安寺を焼く <small>(南信濃)</small></p> <p>川中島第一回の戦端開く <small>(南信濃)</small></p> <p>溝口民部少弼(保科彈正の二男、美和溝口城主)武田晴信の伊那侵略に際し之に従はず捕囚となり孤島に於て殺さる、屍は黒河内八人塚に埋む <small>(伊那武鑑根元記 甲陽軍鑑)</small></p> <p>黒河内八左衛門朝光は黒河内二郎義純の後裔にて天文中諏訪頼茂の旗下に屬し弘治二年武田氏討入の時小豆坂に戦死す、弟正信は孤島に殺さる <small>(木ノ下陰 甲陽軍鑑 長谷村地誌)</small></p>						

高上 _{一七三}	尋上 _{一七三}	高上 _{一六三}	尋上 _{一七三}	高下 _{一三}	尋上 _{一七三}	高上 _{一六三}	高上 _{一七三}
三三六	三三六	三三二	三三二	三三〇	三三八	三三六	三三六
弘治二	全	全	全	永祿三	全	全	全
後奈良	全	全	全	正親町	全	全	全
<p>小泉五郎左衛門武田氏の旗下に屬し二十騎の將として飯島村石曾根に居住す (甲陽軍鑑)</p> <p>七月 武田の武將秋山伯耆守信友高遠城代となり伊那郡を治す (甲斐國志)</p> <p>武田晴信文永寺の堂塔を再興す (伊那尊王思想史)</p> <p>織田信長桶狭間に今川義元を滅す (國史辭典)</p> <p>武田、上杉の軍川中島に激戦す (川中島戰史)</p> <p>山本勘助高遠城を改築す (甲斐國志 高遠記集成)</p> <p>飯田城主坂西氏亡び秋山伯耆守信友(高遠城主)飯田城に移る (甲斐國志)</p> <p>武田晴信諏訪下社の祭祀を再興す (諏訪史料叢書 下社祭祀再興次第)</p>							

×	尋上 _{一七三}	高上 _{一六三}	尋上 _{一七三}	高上 _{一六三}	尋上 _{一七三}	高上 _{一六三}	×
三三八	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三八
永祿二	全	全	全	天正元	天龜三	全	正親町
全	全	全	全	全	全	全	全
<p>木下總藏天文の始め木下城主たりしが十二年松尾城に移り本國寺合戦に小笠原信友に殉じ戦死せり</p> <p>十二月 武田晴信甲斐より遠山地方を経て遠州三方原に家康と兵を交ふ (國史辭典)</p> <p>正月 武田晴信三方原野田城に家康を破りて三月三河に入る</p> <p>四月 武田晴信<small>クワク</small>と言ふ病に羅り心肝を浸され下伊那駒場に病没す (南信濃)</p> <p>七月六日 小笠原信嶺長條に在城 (太田氏近代年表)</p> <p>小笠原信貴下伊那、安布知神社を再建す (安布知神社由緒書)</p> <p>保科正直、白山社殿堂再建す (白山寺歴代記)</p> <p>仁科五郎盛信高遠城主となり武田遺遺軒(大島城主)後見となる (上伊那郡史)</p>							

高下	高下	高下	高下	高下	高下	×	×
二 三三五	二 三三五	二 三三五	二 三三五	九 三三五	二 三三四	三三四	三三四
全	全	全	全	全	全	全	天正二
全	全	全	全	全	全	全	正親町
<p>坂西織部亮飯田居城、保科正直監視す (飯田世代記 上伊那郡史)</p> <p>座光寺番匠北村左近歿す (開善寺過去帳)</p> <p>武田勝頼諏訪下社に三重塔を建立す (棟札寫)</p> <p>正月 織田信長東海東山道修理、道中三間半、三十六町を一里とす (四隣譯載)</p> <p>五月 織田信長家康を援け武田勝頼を長篠に破る (國史辭典)</p> <p>五月二十一日 山村常葉飛彈の守、飯沼齋藤六兵衛、坂西長門、坂西主計等長篠に討死す (開善寺過去帳)</p> <p>小河庄、野生大和守光久、波合備前守胤成等討死す</p> <p>飯田坂西氏、松尾小笠原信嶺に攻められ市瀬山中に討死す (飯田世代記 飯田萬年記)</p>							

高下	高下	高下	高下	高下	高下	×	高下
二 三三五	二 三三五	二 三三五	二 三三五	二 三三五	二 三三七	三三六	二 三三七
全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全
<p>十二月 美濃岩村城主秋山伯耆守信友織田信忠に攻められ長良川に磔せらる (開善寺過去帳)</p> <p>十二月 下伊那且開村瑞光院に武田勝頼禁制を下す (飯田郷土年表)</p> <p>十二月 武田勝頼長篠歸陣の途、座光寺宮崎八郎館に立寄、同人の鐵砲傷を見舞ひ名馬を與ふ (信濃一國城主得替記)</p> <p>二月 高遠乾福寺の僧、甲州惠林寺に行はれし武田晴信の埋葬式に臨む (上伊那郡史)</p> <p>三月八日 武田氏下馬札を文永寺に建つ (文永寺下馬札)</p> <p>三月 下條信氏へ飯島氏より小林無手右衛門を使者に遣す故討取られ度しとの依頼あり、依つて佐々木右衛門、金田治右衛門に討たしむ (下條山來記)</p> <p>知久頼氏等武田の人質として甲斐の鶴嶋に在りしが配所を脱出して遠州に逃れ、後貴寺宮を娶る (知久神樂山山城記録)</p>							

高尋上 一七三	高尋上 一七三	高尋上 一七三	高上 一七五	×	高尋下 三六	高尋下 三六	高尋下 三六
二三九	二三九	三四〇	三四一	三四〇	三四二	三四二	三四三
天正七	全	全	全	全	全	全	全
正親町	全	全	全	全	全	全	全

七月十九日 甲斐韮崎に小笠原長時武田氏と戦ひ倉田將監討死す
(飯田郷土史年表)

十一月 武田晴信の姉芳聚尼中澤村に死す (中澤村誌)

三月 武田晴信赤穂光前寺、々領百石を寄進す (光前寺分限帳)

朝日仙助(受永)家康駿府の田中城攻撃に従軍し敵將西郷伊馬を討つ、
當十八歳なり (伊那志略)

天主教渡來す (國史辭典)

小笠原秀政江州新羅神社前に元服す (市村氏小笠原氏研究稿本)

織田信長、武田勝頼討伐に着手す (國史辭典)

織田軍伊那に侵入す

高尋上 一七三	高尋上 一七三	高尋上 一七三	高上 一七五	×	高尋下 三六	高尋下 三六	高尋下 三六
二三九	二三九	三四〇	三四一	三四〇	三四二	三四二	三四三
天正七	全	全	全	全	全	全	全
正親町	全	全	全	全	全	全	全

信忠の動靜 (古記録及野史考證)

二月 三日 先鋒隊森勝藏、團平八木曾口に向ふ

二月 六日 一隊は伊那街道を進軍す

二月十二日 信忠岐阜發土田泊 一隊園原野營

二月十三日 高野着

二月十四日 美濃岩村着 飯田城下地燒豫備 (飯田舊事記)

下條九兵衛、小笠原信嶺降伏す

二月十五日 飯田城主坂西氏滅亡、先鋒大島城に到る、保科正直(飯田を)武田信康(大島を)逃げて高遠城に入る

二月十六日 大島城攻略

片桐長公、赤須隼人正清玄(上穂) 岩間小太郎爲遠(岩間)
片桐軍人政忠(片桐) 片桐安藝守正保(葛島) 名古新三郎
(名子)等討死す

飯島民部少弼、同小太郎大島城を脱して高遠城に走る

二月十六日 赤穂光前寺、飯島本郷西岸寺、赤穂下平長春寺兵火炎上す
二月十七日 信忠飯田に着き毛利秀頼を置く、大島城に三日滞留して下
伊那に制法を定む

二月廿八日 森長可、杖突峠を越へ荊口に出で弘妙寺を焼き山室村遠昭
寺に炊出しをなさしむ (弘妙寺記録)

二月廿五日 森長可着陣を信忠に告ぐ、信忠勸降使を高遠城に送る、仁
科盛信肯かず

三月 一日 織田軍高遠城攻撃信忠飯島より天龍川を渡りて貝沼に着す

三月 二日 高遠落城、盛信以下討死す主なる戦死者、副將小山田備中
守昌行、渡邊金太夫、諏訪勝右衛門頼清、諏訪はな、遠山
遠江守景宏、羽桐九郎次郎、波多野源左衛門、小幡五郎兵
衛、全清左衛門、飯島民部少弼重家

三月 二日 毛利秀頼文永寺々領を押領す、正親町天皇信孝に命じて辰
翰を下して回復を命じ給ふ (文永寺古文書)

三月 三日 織田信忠上諏訪に至る

三月十一日 武田勝頼甲斐國天目山に討死す (國史辭典)

信長の動靜

三月 二日 木曾義昌信長に通じ武田勝頼兵を諏訪に出し之を討たんとす

三月 三日 信長武田攻討軍の部署を定む

三月 五日 安土發

三月 六日 呂久の渡

三月 七日 岐阜一泊

三月 八日 岐阜發

三月 九日 各所へ陣觸 (信長記)

三月十三日 信濃平谷入

三月十四日 平谷泊 信忠勝頼の首を献ず

三月十五日 飯田着 勝頼の首を梟す

高尋下 四七	高尋下 四七
二三四三	二三四三
全	天正一〇
全	正親町
<p>三月十七日 飯島</p> <p>三月十八日 高遠</p> <p>三月十九日 上諏訪法華寺に會し信忠家康來會す</p> <p>三月二十日 小笠原信嶺、木曾義昌謁見す</p> <p>三月廿九日 論功行賞</p> <p>瀧川一益 關東管領として前橋に封ず</p> <p>森蘭丸 義濃岩村に封ぜらる</p> <p>毛利河内守秀頼を飯田長姫城に封ず</p> <p>知久頼元 家康に屬す</p> <p>河尻鎮吉 諏訪を領す</p> <p>四月二十日 信長甲州に入りて富士川を下り四月二十日岐阜に歸る</p> <p>六月 二日 京都本能寺の變起り毛利秀頼飯田領を捨て、上洛す (飯田世代記)</p> <p>知久頼氏家康に従ひて上洛中本能寺の變に遇ひ濱松に歸城し、七月廿六日伊那六千貫文を賜ふ (清和源氏知久家傳記)</p>	

高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七	高尋下 四七
二三四三	二三四三	二三四三	二三四三	二三四三	二三四三	二三四三	二三四三
全	全	全	全	全	全	全	天正一〇
全	全	全	全	全	全	全	正親町
<p>六月五日 保科正直高遠城を攻略す (武徳年集編成)</p> <p>六月 諏訪頼忠舉兵高島城を復す (諏訪史料叢書十五卷)</p> <p>諏訪頼忠徳川家康に屬す (藩幹譜 澤茂兵衛留書)</p> <p>七月十六日 保科正直藤澤頼親を福與城に攻撃し十八日陥落す 九月廿一日家康に通じ十月十四日感狀を請く (武徳年集編成)</p> <p>七月 依田信蕃諏訪佐久兩郡を領す (北佐久古文書調査書第一輯)</p> <p>七月十六日 小笠原貞慶深志を占領し、松本と改む (市村氏小笠原氏研究稿本)</p> <p>八月 菅沼大膳亮定利知久平より飯田に移り居住す、朝日受永従ひ來る (飯田世代記 伊那記)</p> <p>八月 北條氏直乙事(諏訪 本郷村)に徳川勢と對陣す (諏訪史料叢書 十五卷、十六卷)</p>							

高下六	二三二	天正〇	正親町	十月 保科正直家康方に従ひて北條氏に背き爲に伊那諏訪地方は徳川氏の領有に歸し、正直は高遠城主となり、後家康知行を定むる時上野多胡城一萬石の城主となる (甲斐國志 高遠記集成 保科略系)
高下六	三四三	全	全	十一月 徳川、北條兩氏甲信二國の領有を頒つ (上伊那史)
×	三四三	全二	全	三月 柴田康忠、徳川家康の命に依り高鳥城を鎮す (諏訪史料叢書)
×	三四三	全	全	三月廿八日 諏訪頼忠、諏訪郡一圓を領す (諏訪史料叢書十六卷 家康宛行狀)
高下二五	三四三	全	全	秀吉大坂築城を三十余州に令す (國史辭典)
高下二四	三四三	全	全	八月 徳川家康女を北條氏直に嫁せしめ盟約強固となる (上伊那郡史)
×	三四三	全	全	八月 木曾義昌福興田中城に陣を占め保科正直を高遠城に攻む高遠小勢なれば敵し難きを知りて戦はず斥候戦のみにて義昌木曾に歸れり (上伊那郡史)
×	三四三	全	全	小笠原貞慶と保科正直と衝突す(上伊那郡史)

高下二五	三四三	全	全	十一月 小笠原貞慶一子幸松丸を人質として徳川氏に降る
高下二五	三四四	全二	全	四月 小牧長久手の戦に諏訪頼忠、菅沼定利、保科正直等と共に家康の爲に妻籠城を攻む (諏訪家々譜)
×	三四四	全	全	小笠原貞慶變心、上杉、木曾氏等と共に豊臣氏に通じしかば家康怒りて菅沼、諏訪、保科氏をして桔梗原に進軍せしめたりしが將に豊臣氏の援軍來るの風聞に依り兵を收めて退却せり (南信濃)
高下二五	三四四	全	全	九月 木曾義昌長久手の戦後家康に叛し、秀吉に屬し子義春を人質とす家康菅沼、諏訪、保科三氏に令して義昌を討たしむに容易に城を抜く能はず圍を解きて退かんとするを伏兵に掩撃され、菅沼氏の勇將朝日受永乗馬を敵弾に打たれ歩して退却せり (南信濃)
×	三四四	全	全	繪旨を文永寺に賜ふ (同寺文書)
高下二〇	三四五	全三	全	八月二日 飯島辰千代家康の命に依り、小笠原掃部大夫、松岡右門、下條手千代、大島新助等と共に真田安房守を征む

(飯島家所藏 家康御時觸書)

高尋下元 高下二〇	全	全	×	×	全	全	高尋下元 高下二〇
三三五	三三五	三三五	三四六	三四六	三四五	三四五	三三五
天正三	全	全	全	全	全	全	天正三
正親町	全	全	後陽成	後陽成	全	全	正親町
<p>八月 菅沼、諏訪、保科の諸氏家康の命に依り上田出陣、眞田安房守を攻む (高遠記集成)</p> <p>十二月三日 小笠原貞慶宮所を抜き三日高遠城を攻む、保科正俊防戦に務めて之を走らす (赤羽記)</p> <p>小笠原貞慶高遠城攻撃の時、僧行尊鉾持棧道の戦に僧兵を率ひて高遠勢に参加す (高遠記集成 月山記事)</p> <p>櫻井安藝守重人富縣村甲斐沼中島城に居住し東光寺を開く (伊那武鑑根元記 信濃奇勝録 伊那温知集)</p> <p>松岡右衛門太夫頼貞没落す (市村郷土史講話)</p> <p>秀吉大小判金を鑄さしめ兩、分、朱の制度を定む</p> <p>貫高制を改めて石高制となす (松尾小史)</p> <p>四月諏訪頼忠、六月毛利秀頼小田原の陣に従軍す (藩翰傳 諏訪家々譜)</p>							

高尋下六 高下二六	全	高尋下二 高下二二	×	高尋下五 高下二五	全	全	高尋下六 高下二六
三三〇	三三〇	三四八	三四八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
天正八	全	全	全	全	全	全	天正八
後陽成	全	全	全	全	全	全	後陽成
<p>五月 堀秀政小田原陣に病歿す</p> <p>七月 小田原城陥り北條氏直降り、秀吉白川に兵威を視す (國史辭典)</p> <p>八月 毛利秀頼再び伊那郡を領し、高遠に城代岩崎左門重次を置く (高遠記集成 建福寺文書)</p> <p>八月 石川數正松本城を領す (上伊那郡史)</p> <p>八月 諏訪頼忠武藏の奈良梨、羽生、蛤川に轉封 (諏訪家々譜)</p> <p>日根野高吉豊臣秀吉の命に依り高島に封ぜらる (諏訪史料叢書 藩翰譜)</p> <p>十月 信州一圓の檢地青表紙御帳面成る (山裏内北大鹽村田畑引得帳 眞志野村外山島帳 諏訪史料叢書)</p> <p>日根野高吉高島城を築く (諏訪史料叢書十四卷)</p>							

高尋下 一五六	×	高尋下 二九	×	×	×	×	×
三五八	三五八	三三七	三三六	三三五	三三五	三五四	三五四
全	全	慶長 三	全	全	全	全	文祿 三
全	全	全	全	全	全	全	後陽成
<p>三月 毛利秀頼朝鮮征伐從軍の歸途病歿す (飯田舊事記 飯田世代記)</p> <p>三月 日根野高吉朝鮮征伐に從軍す (武家事記 千曲之眞砂)</p> <p>十二月二十八日 諏訪頼忠上野國總社<small>ソウジヤ</small>に轉封 (諏訪家々譜 藩翰譜)</p> <p>京極修理大夫源高知、伊那郡に封ぜられ高遠より飯田に移る (伊那温知集)</p> <p>京極高知春日街道開鑿に着手す (伊那記)</p> <p>十一月十九日 京極高知より飯島町傳馬免許さる (飯島村宮下家所藏京極高知傳馬免定)</p> <p>京極高知下街道を西山手に附贊仰付られ市田、大島、片桐、飯島の西山手に街道を切開く (上片桐村龜屋文書)</p> <p>伊那郡の分村制成る (上伊那郡史)</p>							

高尋下 一五六	×	高尋下 二九	×	×	×	×	×
三五八	三五八	三三七	三三六	三三五	三三五	三五四	三五四
全	全	慶長 三	全	全	全	全	文祿 三
全	全	全	全	全	全	全	後陽成
<p>知久神峰大和守頼氏没落す (飯田舊事記)</p> <p>京極高知飯田城の外壕を堀りて柵形を造る (飯田舊事記)</p> <p>五月十日 小笠原貞慶下總古河に卒す (市村氏小笠原氏研究稿本)</p> <p>京極高知四萬石加封せられ十五萬石となる (信陽城主得替記)</p> <p>松尾、小笠原信嶺關東所替に付其城下町を引く</p> <p>三月三日 秀吉五人組の制を布達す</p> <p>羽柴修理光前寺へ寺領百石餘を寄進す (光前寺年表)</p> <p>八月 秀吉逝去、外征諸將を召還す</p>							

×	×	×	×	×	×
三五八	三五九	三五九	三六〇	三六〇	三六〇
慶長三	全四	全四	全五	全五	全
後陽成	全	全	全	全	全
飯田城主京極高知丹波國に封ぜらる <small>(上伊那郡史)</small>	飯田城下に於て傳木人足と小奉行と衝突し、小奉行を殺せし人足兄弟は町中引廻しの上獄門に梟さる <small>(飯田舊事記)</small>	武田番匠(西高遠町番匠村池上の祖)歿す、身延山久遠寺へ普賢堂及神宮建立、甲陽武田家より賞狀を三通受けたり <small>(上伊那人名一覽表)</small>	五月 朝日受永光前寺、西岸寺、瑞應寺其の他の神社拂閣に土地を寄進す	六月 京極高知、家康の會津征伐に従軍す、小笠原秀政も從 <small>(上伊那郡史)</small>	七月 諏訪頼忠徳川家康に従ひて上杉景勝を討つ <small>(諏訪家々譜)</small>
				七月廿一日 石田三成兵を擧げて家康を會津の上杉と挾撃せんとす	七月廿五日 家康小山會議 眞田昌幸、幸村從軍せしが三成の擧兵を聞き西軍に應ず可く上田に返す

全	全	全	全	全	全
三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇
全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全
七月廿八日 家康小山に千村良重、山村良勝、馬場昌次を召して行軍の木曾通行を容易ならしむべく命ず	八月 四日 小山發、江戸着	八月十一日 千村、山村、兵を鹽尻に擧げ十二日贊川の砦を取る	八月十三日 福島に入り木曾谷平定、家康に報告感狀を賜ふ	八月廿一日 遠山九兵衛、小笠原長巨 千村、山村に加勢なすべき沙汰あり	八月廿三日 山村、千村に對し尙美濃境偵察の命あり、座光寺爲眞は伊那偵察の下命にて山吹に任務す
八月廿四日秀忠宇都宮發、菅沼定利養子忠政從軍上田城攻撃抜く能はず	九月十一日小諸發 十二日長みね 十三日鍛冶澤 十四日下諏訪 十五日 日本山 十六日木曾氏舊館に入り宿泊、千村、山村引見 十七日妻籠泊 是の日關ヶ原の捷報到る 十八日可兒大寺泊 二十日近江草津に東山道軍と合す	九月 諏訪頼永、日根野吉明等上田城に眞田昌幸を攻む <small>(諏訪家々譜)</small>			

全	尋下 三五	全	全	全	尋下 二〇
三六一	三六一	三六一	三六一	三六一	三六〇
全	全	全	全	全	慶長 五
全	全	全	全	全	後陽成

十一月 京極高知丹波へ移封 (飯田世代記)

十二月 小笠原長巨伊豆木を賜ふ

飯島彌兵衛爲延堀尾家に屬し關ヶ原に出陣せしが主家微運に付浪人す (飯島爲房遺言狀)

二月 小笠原秀政下總古河より移り京極高知の後を繼ぎ、執權春日淡路守に命じて工事を監督し春日街道の完成を計る

日根野吉明下野の壬生に轉封さる (藩翰譜)

諏訪頼永、諏訪の故封に復す (諏訪家々譜)

箕輪領、小笠原秀政の支配となる

宮崎筑後守、關駒場を賜ふ (信陽城主傳替記)

×	尋下 三五	×	高下 一九	高下 二四	×	高下 元	高下 三七
三六一	三六一	三六二	三六三	三六四	三六五	三六七	三六八
慶長 六	全	全 七	全	全 八	全 九	全 一三	全 一三
後陽成	全	全	全	全	全	全	全

座光寺爲眞一千石を領し山吹に居館 (上伊那郡史)

井上淡路守國光鹿鹽大草より今田五千石に所替 (伊那武鑑根元記)

飯田に問屋建つ、年寄。肝煎。問屋の三役出來

上穂村幕府領に屬し千村平左衛門預りとなる (赤穂文化史年表)

知久則直、阿島に陣屋を建つ (飯田郷土史年表)

七月二十八日 朝日受永高野山參詣 (飯田郷土史年表)

角倉了以幕命に依り天龍川改修通船を企つ (徳川實記 蜀山人全集)

春日街道竣工す (飯田舊事記)

高下三七	三三七〇	慶長一五	後陽成	此の頃甲州街道改修さる (諏訪史料叢書十六卷 諏訪頼永定書)
高下二六	三三七〇	全	全	赤穂光前寺大僧正盛海寂滅す (光前寺々徳分限帳)
高下二七	三三七〇	全	全	傳馬法を令達す (國史辭典)
高下三三	三三七三	全	後水尾	幕府天主教を禁じ天主教院を毀つ
高下元	三三七三	全	全	天龍川通船々賃を定む
高下三三	三三七三	全	全	飯田西教寺、寺號を復稱し降嚴寺と云ふ (伊那神社佛團記)
×	三三七三	全	全	小笠原秀政、二木六右衛門を中箕輪村木下陣屋に置く (伊那記)
尋下元	三三七三	全	全	七月 小笠原秀政三百石加増、松本に移封さる (飯田世代記 伊那記)

尋下元	三三七四	慶長一九	後水尾	十一月 大阪冬の陣、小笠原秀政東山道の監視を命ぜらる (飯田舊事記)
×	三三七四	全	全	光前寺中興の主、尊應法師住職となる (光前寺分限帳)
×	三三七四	全	全	十一月 知久則直(阿島陣屋)浪合の關を守る (飯田郷土史年表)
×	三三七四	全	全	十一月 小笠原長巨(伊豆木陣屋)箱根の關を守る (飯田郷土史年表)
尋下元	三三七四	全	全	諏訪忠恒大阪冬の陣に従軍す (諏訪家々譜)
高下三三	三三七五	元和元	全	五月 大阪夏の陣、保科正光家康に従ひて戦功あり (甲斐國志 高遠記集成)
尋下三〇	三三七五	全	全	五月 眞田幸村大阪に討死す
全	三三七五	全	全	知久則直、座光寺爲眞、小笠原長巨等攝津國牧方守備(飯田世代記 飯田舊事記)

高下 三五	三七七	天和 三	後水尾	遠山土佐守景清、江戸參勤の歸途大河原落合にて百姓の石弓にかゝり死 亡す、依つて改易され御料所となる (伊那郷村記)
×	三七七	全	全	手良郷(八ッ手、野口、中坪)千村氏の支配となる (伊那記)
×	三七六	全	全	上穂村の内(千五百石の内九百七十石餘)近藤織部の知行となる
×	三七六	全	全	近藤重堯五千石を賜ひ立石(三穂村)に陣屋を建つ (上伊那郡史)
×	三七六	全	全	十一月十五日 諏訪頼永信濃筑摩郡五千石を加増さる (諏訪家々譜)
高下 三四	三七九	全	全	千村良重尾張徳川に屬す (上伊那郡史)
×	三八〇	全	全	知久氏村上源助に替り幕府領を支配す、浪合、帯川、心川、小野川關所 を預かる (上伊那郡史 松尾小史)
×	三八〇	全	全	十一月 光前寺へ青獅子を奉獻す

×	二八〇	元和 六	後水尾	座光寺爲眞、座光寺如來寺を再建す (山吹藩史料)
×	二八一	全	全	此の頃和田宗充の考案にて水車始めて出来る (各々御用儀)
×	二八一	全	全	飯田町有志、江州日野より漆器職人を招く
×	二八四	寛永元	全	田島水積の爲、高遠原に登り開墾して住家を營む者多し (龜屋文書)
×	二八四	全	全	本年春日淡路守、田島より高遠原に移る
×	二八四	全	全	天龍川大洪水にて沿岸の田圃流失多し (上伊那郡史)
×	二八四	全	全	脇坂氏片桐町龍泉寺を開基す (伊那志略)
×	二八五	全	全	八月二十七日 關所制度改められ通行に頭巾を取らしむ (上伊那郡史)

×	×	×	×	×	×	×	尋下七	×	×	×	×
三三六	三三七	三三八	三三九	三四〇	三四一	三四二	三四三	三四四	三四五	三四六	三四七
寛永三	寛永四	寛永五	寛永六	寛永七	寛永八	寛永九	寛永十	寛永十一	寛永十二	寛永十三	寛永十四
後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾	後水尾
四月 松平忠輝高島に流謫せらる <small>(諏訪史料叢書)</small>	本年頃伊那の男女、結髪に油を付けず又元結を用ひず	十一月十八日淺間山噴火す	松代長國寺を以つて信州一國の曹洞宗の僧録と定む	正月十四日 名醫永田徳本諏訪長地村東堀村に歿す <small>(日本醫學史 長野縣史蹟名勝天然記念物調査報告第十四輯)</small>	日樹上人(身延山の僧)不受不施の非を幕府に訴へ江戸城中に於て酒井雅樂頭の判決に接し飯田城主御預けとなる <small>(人名辭典)</small>	山吹藩主座光寺喜度、座光寺如來寺を修補す <small>(神社佛閣記)</small>	山吹藩主(座光寺勘左衛門)山吹に封ぜらる <small>(朱印狀 上伊那郡史)</small>				

×	×	×	×	×	×	×	高下三六
三三〇	三三一	三三二	三三三	三三四	三三五	三三六	三三九
寛永八	寛永九	寛永十	寛永十一	寛永十二	寛永十三	寛永十四	寛永十八
明正	明正	明正	明正	明正	明正	明正	明正
僧天海赤穂光前寺に法定狀を奉る <small>(光前寺々徳分限帳)</small>	伊那關所の圖面を幕府に納む	堀親良、徳川秀忠の遺物を賜ふ	今田頼母進、國利を沒收せらる	朝日受永歿す(七十七) 墓は大島村本光寺に在り <small>(伊那郷村記)</small>	諏訪忠恒封を受く	知久直明十三歳、家光に謁す <small>(清和源氏知久家傳記)</small>	二月七日 諸家の系圖を徴す

×	高下三	×	×	×	高下五	×
二二〇七	二二〇三	二二〇三	二二〇五	二二〇五	二二〇二	二二〇一
全	全	全	正保二	全	全	寛永一八
全	後光明	全	全	全	全	明正
<p>光前寺仁王門再建 (光前寺年表)</p> <p>譜代大名の交替の制を定む</p> <p>小間物屋四郎左衛門切支丹を擴めて刑せらる (上伊那郡史)</p> <p>九月十七日 諸家系圖成る、翌年諸家系圖御改めあり</p> <p>脇坂候梨木新田を開發す (伊那記)</p> <p>三月九日 八ッ岳入會につき諏訪領葛木村と逸見筋(甲斐)小淵澤村と出入あり (八ッ岳御證文)</p> <p>六月 ポルトガル人長崎に來りて互市を乞ふ</p> <p>幕府諏訪上社千石、下社五百石を社領として寄進す (幕府寄進狀)</p>						

×	高下四	×	×	×	×	×
二二二二	二二二一	二二一〇	二二〇九	二二〇八	二二〇八	二二〇七
承應元	全	全	全	全	全	慶安元
全	全	全	全	全	全	後光明
<p>飯田大宮例祭始る</p> <p>由井正雪の亂</p> <p>飯田町戸數、五百六十三軒 (飯田領雜記)</p> <p>伊那街道竣工し春日街道廢止さる (伊那志略)</p> <p>檢地制を定む (石曾根檢地帳 田切村檢地帳)</p> <p>石曾根村(田畑) 四〇二反一六步 米 五六七石五七七合</p> <p>田切村(田畑) 四三五反七三歩 米 六二六石九四六合</p> <p>二九五反七五歩 米 三三三石七三〇合</p> <p>加集奎之助(飯田脇坂の臣)木下陣屋にあり箕輪領を治む、領内の開墾事業其の他産業の開發に功大なり</p> <p>脇坂氏吹上新田開發、中曾根新田開發 (伊那記)</p>						

尋下四〇	×	高下四八	×	×	×	×	×
三三四	三三四	三三五	三三八	三三八	三三八	三三〇	三三九
承應三	全	明暦元	全	全	全	全	萬治二
後西院	全	全	全	全	全	全	後西院
<p>禁裏の修繕費を諸大名に課す</p> <p>高遠領民苛政を憂ひ他郷に出ずる者三千餘人に及ぶ</p> <p>脇坂安吉、大阪加番に付木曾路板橋迄改修、之より鹿道と稱す</p> <p>正月 江戸大火、諸候に江戸築城を命じ一萬石以下は役人一〇〇人を課せり</p> <p>箕瀬の千村氏陣屋を荒町に移す (飯田世代記)</p> <p>脇坂氏藪原新田開發 (伊那記)</p> <p>幕府信州一圓へ山林視察吏を巡遣す (松尾小史)</p> <p>遠州芝本村の人飛彈市左衛門、天龍を筏にて米を下す</p>							

尋下三三	×	高下三三	×	×	×	×	×
三三五	三三四	三三五	三三一	三三二	三三一	三三〇	三三九
全	全	全	全	全	寛文元	全	萬治二
全	靈元	全	全	全	全	全	後西院
<p>佐々木喜庵下條由來記を成す (下條由來記)</p> <p>堀田正信、時政の嗣欠を論じ公儀へ意見書を提出し、十一月封を奪はれ信濃飯田藩に預けらる</p> <p>保科正貞、保科氏の正系を繼いで下總飯野の城主となる (保科氏系圖 甲斐國志 高遠記集成)</p> <p>八月 關所通行の女手形を制定す</p> <p>野口在色(淡林派の俳人)江戸の歸途飯田に来る (俳諧解脫抄)</p> <p>知久直幸幕府書院番たり、歿して子なく絶家す (知久氏系圖)</p> <p>二月 高島藩内の宗門改始る (寛文五年宗門改帖 諏訪家雜錄)</p> <p>光前寺辨天堂建立、寺領六十石の朱印狀を受く (光前寺年表)</p>							

×	×	×	高下四	×	尋下四 高下四	×	×
二三六	二三四	三三三	二三三	二三三	二三三	三三二	二三〇
全	延寶二	全	全	全	全	全	寛文二
全	全	全	全	全	全	全	靈元

箕輪領(脇坂)、高遠領(鳥居)と村境を争ひ江戸評定所にて裁許さる、中原の境の松並木は其の爲に植えしものと云ふ (上伊那郡史)

飯島町家数、四〇軒 傳馬數、二十八匹 (飯島郷土史料)

和田宗允(林羅山に學ぶ)、脇坂安吉播州龍野に移封の時主に從ひて去る 宗充等伊那文化の種を蒔く (飯田世代記 尊王思想史)

八月十四日 堀親昌入部、善政を布き實業を奨励し飯田文化興る (尊王思想史)

飯島陣屋御料所となり天羽七右衛門初代々官となりて支配す

保科正文(徳川秀忠の落胤)高遠城主となり、後山形に移り又會津に移封し松平を稱す、名君の譽あり (徳川實記 保科略系 高遠記集成)

坂本源右衛門、松島陣屋代官たり

九月 諏訪忠晴、『本朝武林小傳』を編む (本朝武林小傳序)

高下五	高下四	×	×	×	×	高下四	高下四
二三七	二四〇	二四一	二四一	二四一	二四一	二四〇	二四七
延寶五	全	天和元	全	全	全	全	全
靈元	全	全	全	全	全	全	全

林甚内上伊那郷十四ヶ村第一期大庄屋役となり地方自治の向上と村の開發に盡力す

九月十日 大宰春台生る (飯田世代記)

西岸寺中興の主大極和尚美濃伊深、正眼寺の住職なりしも、來りて同寺を中興す (西岸寺先代年曆記美濃正眼寺文書)

佐竹陣屋創設す

近藤重信立石に陣屋を築く (伊那尊王思想史)

坂倉重宣天和三年五月十八日叔父重種に致仕して其所領を分ち賜る 箕輪上總にて二万石 (續藩論譜)

貝原益軒中仙道により諏訪を通過す (岐蘇路記)

二月 生類憐みの令あり、後度々下りて天下苦む

×	×	×	×	×	×	×
三五八	三五八	三五九	三六一	三六二	三六三	三六三
元祿二	全	全	全	全	全	全
東山	全	全	全	全	全	全
堀親賢大和守に任じ從五位下を賜ふ (伊那記)	琉球王燒芋を傳ふ、八里半と看板に書く (江戸繁昌記)	信州一圓の檢地、松本城主水野隼人正執行 (伊那記 伊那郷村記)	十二月 板倉重宜(箕輪)、備中に所替となり木下陣屋取拂となり入札さる (上伊那郡史)	七月より九月迄、文永寺の寶物展覽會を芝神明に開く (文永寺記録)	堀親賢、美濃國岩村城主丹波和泉守領地沒收の跡受取の台命 (伊那記 飯田世代記)	八月 太田隱岐守資良松島に陣屋を設く (伊那記)
赤穂義士の快舉						

×	×	×	×	×	×	×
二二七〇	二二七〇	二二六五	二二六五	二二六三	二二六三	二二六三
全	全	全	全	全	全	全
全	中御門	全	全	全	全	東山
飯島村本郷に歌人河野清女生る、伊那三女の一人にて歌集を残す	五月廿二日 曾良壹岐の勝本に歿す (諏訪史料叢書)	八月七日 堀候江戸屋敷入用の材木を天龍川に下す (飯田領雜記)	幕府役人水害視察に来る	堀氏、美濃惠那郡淺合村稻垣幸人を聘して晒紙の製法を松尾村、代田地方に傳ふ	飯田に消防人足を設く	二月四日 吉良義周高島に流謫せらる (御用狀留書)
						盜賊横行し飯田に始めて目明を置く (飯田世代記 飯田舊事記)

×	尋下五三	高下五三	高下四四	×	尋下五三	×	
三三七	三三七	三三四	三三五	三三四	三三七	三三七	
正徳元	全	全	全	全	全	御中門	
御中門	全	全	全	全	全	御中門	
歌人桃澤龜女(歌人夢宅の母)生る	九月 朝鮮人來朝に付堀親賢餐應役を ^{ツト} 役む (堀家御由緒)	大奥女中、繪島高遠藩御預となる(繪島騷動記 徳川實記 繪島實記 蓮華寺記録)	四月十七日 高遠城主内藤清牧卒す	大島蓼太、大島村に生る (伊那の俳人)	六月 未曾有の大洪水にて赤穂村安樂寺堂宇流失し古田 ^{フツダ} 切川 ^{キリ} を生ず (赤穂文化史年表 伊那記)	福興陣屋飯島支配となる	遠山和田の御傳木金と納なる (伊那郷村記)

×	尋下六三	尋下五三	尋下五三	×	尋下六三	×	
三三六	三三六	三三三	三三三	三三六	三三六	三三七	
全	全	全	全	全	全	享保二	
全	全	全	全	全	全	中御門	
この頃天龍川口辨天島を開鑿湖岸を拓く (諏訪湖の研究)	御鷹飼師來る	飯島代官米澤七兵衛百姓の越訴に因り科を得て飯田に退轉鈴木勘兵衛代りて支配す (伊那記)	木下陣屋廢され飯島支配となる (伊那温知集)	淺間山噴火天龍川満水す	九月 淺間山噴火鳴動聞ゆ (上伊那郡史)	七月二十三日大地震 八月淺間山噴火 (上伊那郡史)	森林法の發布ありて河邊に植林を奨め林を伐りて開墾する事を禁ず

×	×	×	×	×	×	×
三三九	三三九〇	三三九一	三三九二	三三九三	三三九六	三三九七
享保二四	全一五	全一六	全一七	元文元	全	全
中御門	全	全	全	櫻町	全	全
茶種栽培を奨励す	平澤素水(飯島)、京都に繪を修業 (江戸屋藏同人描畫)	安藤太郎兵衛(郡代)、駒ヶ岳探險の最初の文献を遺す (郡代御役前録 駒ヶ岳探險記)	甘藷の栽培を奨励す	片桐村の人前澤玄徳、床に入りて休むことなく精勵して前澤川に沿ふ地を開墾す、瑞應寺へ梵鐘を寄贈し、松川より與田切の間へ石橋を自費を投じて五十餘架す (土地の口傳 瑞應寺梵鐘の銘)	木下陣屋吹倒され鹽尻陣屋に訴ふ、當分不用に付取拂を命ぜらる	歌人桃澤夢宅生る

×	×	×	×	×	×	×
三三九	三三九〇	三三九一	三三九二	三三九三	三三九六	三三九七
天文四	全一五	全一六	全一七	元文元	全	全
櫻町	全	全	全	櫻町	全	全
高遠町大火焼失戸數百六十九軒土藏二十二 (上伊那郡史)	九月 青木昆陽幕命に依り古文書探訪の爲信濃に入る (信濃松本町内名主請書)	四月十日 高遠藩に預けられし老女繪島蓮華寺歿葬す	四月 取退無盡禁止 (飯島陣屋觸)	四月 幕府高津清藏、加藤要助をし傳馬の村々を視察せしむ (松尾小史)	十月 幕府は青木昆陽をして諸國に甘藷を植えさしむ	二月 天領巡見使來る (伊那記)

×	高下四三	×	×	×	×	×
二四〇七	二四〇七	二四三三	二四二六	二四一七	二四一八	二四一八
延享四	全	全	全	全	全	全
桃園	全	全	全	全	全	全
五月十九日 座光寺爲勝參府の歸途、上平村八五郎、龍口村又五郎、田切村瀧水にて流死す (山吹藩史料)	五月晦日 太宰春臺歿す	關盛胤木下に住し伊那記、伊那温地集、伊那神社佛園記を著し郷土研究に没頭す	十月 堀親長家中の情弱を戒む	六月 白隠禪師飯島村西岸寺に講侍、法華講談大會	七月八日 木曾福島光禪寺に講侍	十一月一日 廿日迄瑞應寺(上片桐)に法華講談 (永祿後年代記)
八月 晒紙の元祖幸八死去す	糸商人の旅札始まる					

×	高下五〇	×	×	×	×	×
二四一八	二四一九	二四二二	二四二二	二四二二	二四二二	二四二二
寶曆八	全	全	全	全	全	全
桃園	全	全	全	全	全	全
六月 飯島爲仙生る(和歌、俳句) (飯島家々調 歿冬園和歌集)	那須野さん(歌人)生る、伊那三女の一人として駿河に白隠禪師を問ひて悟る處あり (金鳳寺了法尼記録 祖母さん女略傳)	天龍道人諏訪に現る (天龍道人事述考)	吉良家御抱醫近藤養庵、赤穂浪人討入りの時臂部を斬られ飯田に來り歿す (墓碑順禮)	七月 松田黄牛生る(伊那富村新町の人、坂本天山の門人也)、高遠藩儒となりて武士を教育す (上伊那郡史)	十二月廿三日 百姓一揆起る(飯田地方)	九月 朝鮮使節來朝、國役金當る
十二月 堀親長朝鮮人饗應役を命ぜらる (堀家御山緒)						

×	×	×	尋下七 高下六	×	×	×	×
二四五	二四五	二四三	二四九	二四八	二四六	二五五	二四五
全	全	安永元	全	全	全	全	明和二
全	全	後桃園	全	全	全	全	後櫻町
池大雅歿す(佐竹蓬平大雅に師事す)	宮下正岑生る(歌人夢宅の門人)	俳人櫻井蕉雨生る(伊那の俳人)	十月三十一日 加茂真淵歿す	十二月十一日 白隠禪師入寂す	平澤素水死去す	三月十九日 座光寺藩猪狩を行ふ(山吹藩史料)	正月 千人講騒動にて入牢せし者御免(飯田世代記)

×	×	×	×	×	×	×	×
二四一	二四一	二四一	二四〇	二四〇	二四九	二四九	二四六
全	全	天明元	全	全	全	全	安永七
全	全	全	全	全	全	全	後桃園
九月 大島蓼太歿す	謙訪忠肅封を受く	宮下桃吏歿す(俳人)	十一月廿二日 飯田町正木屋清左衛門及び彦七、長右衛門より百二十艘の大規模の通船願書提出せり	六月 立川富棟(和四郎)謙訪上社秋宮拜殿を造立す(下社権祝家文書)	伊豆大島大噴火にて焼砂降る	野口在色木の下陰を誌す(木の下陰)	九月 強訴、從黨、逃散に付公儀より觸あり

×	全	全	全	全	高下五	×	×	
二四三	二四四	二四四	二四四	二四三	二四三	二四三	二四三	
天明三	全	全	全	全	全	全	天明三	
光格	全	全	全	全	全	全	光格	
八月	諏訪藩家老諏訪頼保等罪せらる <small>(諏訪史料叢書)</small>	十月	凶作に付領主、領内の庄屋を集めて談事あり	十一月	浅間山大噴火	米價騰貴(十兩に付十六七俵 木下、村井)	正月	有志金を出し合つて貧民に施す
		二月	座光寺氏領内の貧民に稗二十七俵を賜ふ <small>(山吹藩史料)</small>	松村理兵衛歿す(天龍川田島河原に獨力にて堤防を築き四萬兩を出費幕府より賞せらる)				

×	高下五	×	高下五	×	×	高下五	高下五	
二四一	二四九	二四九	二四八	二四八	二四八	二四七	二四六	
全	全	寛政元	全	全	全	全	天明六	
全	全	全	全	全	全	全	光格	
八月	唐蠻藥種栽培希望者は藥園へ苗の下附を申出づるの觸あり	九月	領主備荒儲蓄を奨勵す	三石伝十(立川和四郎弟子)生る	四月	座光寺領内の厄病を煩ふ困窮者へ御救米を下さる <small>(山吹藩史料)</small>	四月廿三日	河野清女歿す(伊那三女、本郷の人)
					七月	領主施米三百俵下附 <small>(飯田世代記)</small>	座光寺如來寺炎上す <small>(山吹藩史料)</small>	凶作にて各村騒しく旅に出る者多し

尋下七 高下七	尋下七 高下七	×	×	×	×	×	×
二四三	二四三	二四五	二四五	二四五	二四五	二四五	二四五
全	全	全	全	全	全	全	全
光格	光格	光格	光格	光格	光格	光格	光格
七月	七月十三日	四月	四月	四月	四月	四月	九月
ロシアの船来る	高山彦九郎自殺す	飯島陣屋より村費節減の觸令出づ	宮坂伊三郎甲斐の河口湖の小海老を諏訪湖に放養す	吉瀬源兵衛(算數家)飯島謙齋(手習師匠)生る	この頃諏訪平のぼせ糸(生糸)及び小倉織等の業興る	桃澤夢宅京都に出て歌人澄月法師に師事し師歿後垂雲軒を繼ぎ香川景樹と交遊す、門人多し	座光寺氏如來寺の堂宇造營
			(諏訪湖の研究)	(飯島村史料)	(平野村誌 北信郷土叢書)	(蓬池川) 夢宅和歌集 夢宅門人録	

尋下六 高下六	尋下六 高下六	×	×	×	×	×	×
二四六	二四六	二四六	二四六	二四六	二四六	二四六	二四九
全	全	全	全	全	全	全	寛政二
光格	光格	光格	光格	光格	光格	光格	光格
二月廿九日	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
坂本天山歿す	諏訪忠肅藩學長善館を開設す	伊那赤穂大火全滅に近し	河合正阿修業の爲長崎に出でて蘭學を學ぶ	宮下壺令飯島に生る	櫻井蕉雨主催にて、土訓、集兆、卓池等と大雄寺に百韻を興行す	飯島爲仙、夢宅より皆傳	植松自謙心學普及の爲諏訪に入る
(坂本天山遺墨集 吉田氏文書)	(長善館命令記 大日本教育史料學館年中行事)		(若尾紹介狀)		(伊那の俳人)	(夢宅皆傳書)	(時中含文書 岩波家文書)

高下五四	高下六〇	高下五八	尋下七二	尋下七二	尋下七二	尋下七二	尋下七二
二四六六	二四六六	二四六七	二四六七	二四六七	二四六七	二四六七	二四六九
文化三	全	全	全	全	全	全	文化六
光格	全	全	全	全	全	全	光格
九月 江戸の人藤井甚九郎諏訪に入りて鋸製造を創む (渡邊國武撰碑文原稿)	六月 幕府の節約令出づ	五月 藤森素壁(續雪まろげ)を著す (續雪まろげ)	尊王家岩崎長世生る	十二月 畫家佐竹蓬平山本村に歿す	五月 光前寺三重塔立川和四郎、三石佐十等建築に當る (立川和四郎手紙)	四月 座光寺氏光前寺三重塔彫刻の椽材を寄進す (山吹藩史料)	九月 伊能忠敬實地測量のため諏訪に入る (御用部屋記)

高下五八	尋下七〇	尋下七〇	尋下七〇	尋下七〇	尋下七〇	尋下七〇	尋下七〇
二四八〇	二四七九	二四七八	二四七六	二四七三	二四七二	二四七〇	二四六九
全三	全二	文政元	全三	全九	全八	全七	文化六
全	全	仁孝	全	全	全	全	光格
八月 十返舎一九諏訪伊那通過飯田に來り知久町紙屋に宿泊大平越にて去る (滑稽 狐島)	五月 元結、紙、椀の製造法を他國の者に傳授する事の不可の布令下る (飯田後年代記)	四月 宮下正岑、桃澤夢宅古今傳授の皆傳を受く (夢宅和歌集 上伊那人名一覽表)	十一月 諏訪忠恕封を受く	八月十九日 雷電爲右衛門の角力飯田長源寺境内に催す (赤穂文化史年表)	四月 伊能忠敬測量のため書役、竿手二十三人を従えて伊那を通過す (赤穂文化史年表)	この頃蜀山人、千野貞愼、勝田鹿谷、藤澤正愼(伊那)等交遊あり (勝田文書 諏訪大夫衣水君墓表 千成紀行)	飯田領主朝鮮使節傳奏御馳走役被仰付、御用金三千兩當る

尋下七 高下九	尋下六 高下六	高下五	×	×	高下五	尋下七 高下九
二四八二	二四八四	二四八四	二四八四	二四八四	二四八七	二四八五
文政四	全七	全	全	全	全	全
仁孝	全	全	全	全	全	全
九月 塙保己一歿す	此頃葛飾北齋諷訪湖を寫生す (富山獄三十六景 諷訪湖)	俳人松崎峨蝶生る(田切聖徳寺住職)	十二月 岩本琴齋、谷文晁に畫を學ぶ (諷訪山石本家文書 甲申琴齋文晁合作)	天龍通船願書に、諷訪湖より遠州掛川迄船荷を積下げ、歸りには入用品を積來る事あり	伊那よりは 米穀、コロ柿、葛粉、蕨粉、挽櫛、菅笠、砥石	遠州よりは 鹽、茶、綿、ロソク、小間物、琉球、瀬戸物、魚類
					正月 北原稻雄生る(尊王家) (尊王思想史)	

×	高下五	尋下六 高下七	×	×	高下五	×
二四八六	二四八七	二四八七	二四八九	二四九一	二四九一	二四九三
文政九	全一〇	全	全三	天保元	全	全三
仁孝	全	全	全	全	全	全
大鹿より紀伊殿の材木を天龍川に下す	小林一茶歿す (一茶遺墨集)	八月十三日 松平定信諷訪藩學長善館の額を書す (學館年中行事)	四月 山口不二子堀家に仕ふ	四月 飯島爲仙死去す	十二月 伊藤五六郎諷訪湖釜口の濱中島を撤去す (諷訪湖の研究)	内藤候、加藤嘉七を美濃より招きて高遠焼を創む (上伊那人名一覽表)
						勝田鹿谷、藩主に建白して常盈倉の建設につとむ (大日本教育史資料)

×	×	×	×	×	×	×
二四九三	二四九三	二四九三	二四九三	二四九三	二四九三	二四九三
天保三	全	全	全	全	全	全
仁孝	全	全	全	全	全	全
三月四日 高遠町大火、勢利町一丁焼失	四月より伊藤傳兵衛、傳兵衛腹の堀抜に従事、翌二月完成す (上伊那人名一覽表)	此頃田中大秀 <small>オホヒデ</small> 諏訪に來り金刺 <small>シヅメル</small> 信古と交る (下社秋宮神樂殿勸進帳序)	八月 飯島陣屋焼失す (飯島陣屋代官之次第)	德川齊昭大砲を幕府に献ず、現在高島公園に保存す	三月 福澤憲治饑年要録を出版す (饑年要録)	七月 田中平八生る(上伊那郡澤渡藤島卯兵衛三男、幼名釜吉、弘化二年十二歳にて飯田本町魚商山萬に奉公す)
高下六〇	高下八三	高下六〇	尋下七九	高下六〇	高下六〇	高下六〇
二四九七	二四九四	二四九四	二四九三	二四九三	二四九三	二四九三
全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全
大鹽平八郎の亂大阪に起る、仍て人相書來る						

×	×	×	×	×	×	×
二四九八	二四九八	二四九八	二四九八	二四九八	二四九八	二四九八
天保九	全	全	全	全	全	全
仁孝	全	全	全	全	全	全
宮下正岑歿す	三月 堀候の江戸屋敷焼失、御用金二千兩領内に當る	四月十八日 幕府の御巡見使片桐宿泊	八月 三日 山口不二堀候の妾若山を刺す、若山後に死す	十二月二日 飯田に護送さる	十二月四日 拂曉死罪に處せらる (堀家々傳記)	十二月 宮下權四郎生る(第十八區大區長)
高下五〇	高下五〇	高下五〇	高下五〇	高下五〇	高下五〇	高下五〇
二五〇〇	二四九九	二四九六	二四九六	二四九六	二四九六	二四九六
全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全
五月二十日 堀親實は藩中より人物の輩出を望み書翰を發す	宮坂恒由 <small>ツネユキ</small> 甲斐の荊澤川 <small>ハラスヅ</small> の蜺を諏訪湖に放流す (高坂家文書 諏訪湖の研究)					



高下五四	×	×	×	×	×	×	×
二五〇四	二五〇三	二五〇三	二五〇二	二五〇二	二五〇二	二五〇二	二五〇〇
弘化元頃	全	全	全	全	全	全	天保二
全	全	全	全	全	全	全	仁孝
<p>十月 飛脚賃錢壹里百十二文の割合となる</p> <p>八月 川路村に於て二代目市川團十郎興行を開く</p> <p>四月 堀親實、乗馬を將軍の上覽に供す</p> <p>此の頃から駒ヶ岳登山者多數あり (赤穂文化史年表)</p> <p>八月 領内瓦製造者に對し御作事方勤役被仰付 (飯田後年代記)</p> <p>堀候將軍に従ひ日光に參詣、御用金二千八百五十兩入足三百五十人當る</p> <p>十一月 堀親實老中格に任ず、領内より五千二百三十兩を献ず</p> <p>十二月 老中に任ず</p> <p>此頃小林余左衛門寒天製造を創む (信濃人物誌 白川家文書)</p>							

高下七三	尋下七六	×	×	×	×	尋下七七
二五〇六	二五〇七	二五〇六	二五〇五	二五〇六	二五〇六	二五〇五
全	全	全	全	全	全	弘化二
全	全	全	全	全	全	仁孝
<p>五月 幕府武備を各藩に奨勵す</p> <p>九月二日 堀候加増の本地二千石沒收、全日堀親儀家督親實隱退被仰付 親儀慎み申付らる</p> <p>二月 堀親實通塞御免、十九日剃髮して通翁<small>ニウヤウ</small>と稱す (飯田郷土史料)</p> <p>六月十六日 仁孝帝崩御し給ふ</p> <p>三月 大地震、善光寺最も甚しく寺領町家死亡一二七五人、潰家二三五〇、焼失二一九四軒、參詣人旅人の死者一〇二九人 (飯田世代記) (長野市史)</p> <p>八月六日 品川に砲臺を築く</p> <p>徳川家定、室一條左大臣忠良女、東下中仙道通行にて助郷人足七十一ヶ村に當る</p> <p>正月 飯田家中總鐵砲となる</p>						

高尋下八三	高下六	×	高尋下七九	高下六	×	高尋下八三	高下六
三五〇	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三五二
嘉永三	全	全	全	全	全	全	全
孝明	全	全	全	全	全	全	全
二月 異國船渡來に付領内に達しあり	九月より天然痘流行す (上伊那郡史)	中村中條高遠藩の儒員にて醫業を兼ね路原拾葉を編纂す (路原拾葉)	正月 飯田領主大砲鑄造に付有志の寄附を募る	十二月 飯島陣屋焼く (飯島陣屋代官之次第)	六月 飯島に下平邦造生る	飯田武郷日本書紀通釋に志す (蓬室集)	十一月 阿島に騒動起る

高尋下八六	高下八	高尋下八三	高下八	高尋下八三	高下八	高尋下八三	高下八	高尋下八三	高下八
三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
嘉永六	全	全	全	全	全	全	全	全	全
孝明	全	全	全	全	全	全	全	全	全
六月三日 ヘルリ浦賀に来る	異國船渡來に付大名に御國固被仰付 十四日より藩士七人出立 十七日十一人出立 (飯田郷土史料)	十一月二十三日 米艦渡來に付始めて使を諏訪神社に遣はさる (諏訪上下社文書)	十二月二日 異國船渡來日本保護の爲領内に御用金三千兩當る	二月 異國船は歸帆の時大砲を發すれども驚く勿れとの達しあり	四月六日 大内裏炎上す	七月 日本の國旗を日の丸と定む	二月 松尾多勢子夫君と共に東都に遊ぶ、領主松平義建に謁す		

尋下八二 高下七三	尋下七三	尋下七三	尋下七三	尋下七一	×	×	×
三五八	三五七	三五七	三五七	三五六	三五六	三五六	三五五
全	全	全	全	全	全	全	全
五			四			三	二
全	全	全	全	全	全	全	全
正月 外國と戦争あるかも知れず、依つて槻樫を伐る事を禁止す	十一月十七日 飯田藩操練場にて放鳥討會あり	十月二十三日 飯田藩士をして會津の軍政を視察せしむ	四月 座光寺藩増野原に操練の稽古をなす (山吹藩史料)	十月 二宮尊徳翁歿す	八月十五日 南山三十六ヶ村の代表者、老中真田信濃守に駕籠訴に及ぶ	飯島驛大火全滅(陣屋及牢屋焼失す)	五月 南山の者市田陣屋に到り御料所並に上納を許されん事を嘆願す

尋下八六 高下八六	×	尋下八五 高下八三	×	尋下八五 高下八三	尋下七九 高下七三	尋下七〇 高下九一	尋下七九 高下七四
三五〇	三五九	三五九	三五九	三五九	三五八	三五八	三五八
萬延元	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全
三月三日 櫻田門外の變	十二月 南山騒動起る	五月 横濱開港 九月林善左衛門始めて横濱より生糸を輸出す	伊那俳夕録成る	正月 日章旗を以つて船の旗と定む	九月三十日 堀候、藩士を大森へ砲術の稽古に巡遣す (飯田郷土史料)	七月 植松茂岳幕府の嫌疑にて幽閉さる (伊那尊王思想史)	三月七日 飯田領内七ヶ寺の梵鐘を差出さしむ

(林家文書 平野村誌)

尋下七〇	尋下七〇	尋下八五	×	高下八六	×	尋下七四	×
三五〇	三五〇	三五〇	三五二	三五二	三五二	三五三	三五三
萬延元	全	全	全	全	全	全	全
孝明	全	全	全	全	全	全	全
三月 高遠藩學、進徳館創設せられ中村墨水師範となる、墨水續路原拾葉を編纂す (續路原拾葉)	七月 北原稻雄、弘仁歴運記者を上木す	八月 伊那の生糸始めて横濱に輸出さる	俳人井月伊那の地に來り住す	十一月五日 和宮内親王御降嫁に付中仙道御通輿 (下諏訪御泊 岩波家文書)	和宮東下に付信濃一圓に助郷當る	二月 京都に勤王の志士等、足利尊氏の本像 <small>サラシクビ</small> 梟首事件あり、此時松尾多勢子長州邸に潜匿して捕はれず、四月歸省す (下伊那傳)	三月 伊藤傳兵衛卒去

尋下九一	尋下八六	×	尋下九二	×	尋下八五	×	尋下八五
三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
文久二	全	全	全	全	全	全	全
孝明	全	全	全	全	全	全	全
八月一日 松尾多勢子上洛發程 (尊王思想史)	八月 北原稻雄等古史傳上木の助成者募集を發表す (尊王思想史)	幕府諸候の妻子に歸城を許せり、故に傳馬人足大に當る	二月 英艦神奈川表へ來るに付公儀の觸あり (山吹藩史料)	三月七日 御目見得以下陣羽織着用を許さる	三月十一日 攘夷征伐に付天皇陛下男山に行幸、伊那に拜觀せし者あり	三月十三日 飯島陣屋支配地松本藩預りとなる	十一月 開港場に巡查を置く

尋下七 高下八〇	三五三	文久三	孝明	堀親儀孝明天皇より武備の充實を計れとの詔を拜す (飯田小史)
×	三五四	元治元	全	飯島田切吉瀬源兵衛、天元算法利傳記を上本す (天元算法利傳記)
尋下九〇 高下八六	三五四	全	全	四月 藤田小四郎、武田耕雲齋等筑波山に兵を擧ぐ
高下八六	三五四	全	全	五月二日 堀候大阪警備被仰付 六月十七日大阪着
尋下八〇 高下八五	三五四	全	全	七月 佐久間象山京都にて殺さる
尋下九四 高下八九	三五四	全	全	八月三日 幕府長州征伐の命を發す
尋下九四 高下八九	三五四	全	全	九月 堀候講武所奉行被仰付 (飯田小史)
×	三五四	全	全	九月二十三日 堀候寺社奉行被仰付御用金三千兩當る

尋下九四 高下八九	三五四	元治元	孝明	十月 堀候長州征伐被仰付
尋下八九 高下八六	三五四	全	全	十一月十九日 水戸浪士の來飯を告ぐ
				水戸浪士行程
				八月 十四日 西上に決し那珂湊に於て諸役任命
				十一月 常陸發程、下野經由上野入
				十一月十五日 下仁田に高崎勢を破り十六日進發
				十一月十七日 内山峠越後信濃入、臼田地方泊
				十一月十八日 望月泊 十九日 和田宿泊、小戰
				十一月二十日 和田嶺麓樋橋に諏訪、松本勢撃破下諏訪着陣 (町民逃走して空屋多し)

十一月廿一日	伊那郡に入り松島止宿、高遠藩逃走す
十一月廿二日	高遠藩士進徳館文武總裁、岡野小平治の一隊浪士の通過を沿道に黙送す 浪士上穂に宿泊、人數一八八四人、馬一六八匹、六十八軒に分宿す、報國上金と稱して町内有志に七百五十兩を出金せしむ
十一月廿三日	片桐及大島分宿
十一月廿四日	飯田通過駒場泊
十一月廿五日	駒場發山本に引返し利野峠越清内路泊り
十一月廿六日	馬籠 <small>ウマカゴ</small>
十一月廿七日	中津川泊、越前大野郡に出、風雪の木の芽峠を越え新保宿に到り諸軍の包圍を受け

尋下八九 高下八六	尋下九五 高下八九	尋下八九 高下八六	尋下八九 高下八六
三五五	三五四	三五四	三五四
全	慶應元	全	元治元
全	全	全	孝明
五月	四月	十二月	十一月
山吹藩主水戸浪士通過の時處置宜敷を得たりとて褒詞を受く	謙訪忠誠老中職を退く (徳川慶喜公傳朝比奈閉水手記)	飯田藩主水戸浪士を通過せしめし廉 <small>カド</small> に依り叱責せられ所領の中三千石沒收せらる	水戸浪士追討の御公役、御目付、人足六百人飯島町に分宿、町内の薪を各辻々に運ばせ終夜 <small>カガリヒ</small> 篝火を焚きて町内混雜せりと (山脇政十郎翁八十一歳 昭和九年九月十五日談)
			二月 四日 武田耕雲齋、藤田小四郎以下四百四十一人斬首さる
			慶應元年
			十二月廿四日 本勝寺其他に分宿
			十二月廿二日 加賀の軍門に降る

高下 八五	尋下 八三	高下 九三	尋下 九二	高下 八三	尋下 八五	高下 九〇	尋下 九〇	高下 九三	尋下 九三	高下 八三	尋下 八三	高下 八五	尋下 八五	高下 八五	尋下 八五
三五五	三五五	三五五	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三	三五三
慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元	慶應元
孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明	孝明
七月 天下系平(田中平八)兩替業を横濱に開く (天下系平碑文)	第二回長州征伐の令下る	田中芳男、佛國大博覽會へ派遣さる (人名辭典)	十二月 堀候孝明天皇の謁を賜ふ	正月 明治天皇踐祈	三月 山吹村本學神社(國學者平田篤胤、本居宣長等を祀る)祭典を行ふ (伊那尊王思想史)	小松五右衛門赤羽燒を工夫研究し幾多の失敗の後、良品を得るに至り明治初年より糸鍋の製造に移る									

高下 八六	尋下 八三	高下 九三	尋下 九三	高下 八三	尋下 八三	高下 九三	尋下 九三	高下 八三	尋下 八三	高下 九三	尋下 九三	高下 八三	尋下 八三	高下 九三	尋下 九三	
三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	三五七	
慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	慶應三	
明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	明治	
六月 神戸開港の通知あり	六月二日 堀候西洋銃隊を採用し練習を始む	九月 神符降る	十月 助郷一般に免ぜらる	十月十三日 飯田藩士全部洋服を着用して銃隊を練る	十月十四日 徳川慶喜大政を奉還す	十二月九日 王政復古の大詔降る	一月 大山玄純、三木連等九名岩倉邸にありて勤王の志を表す (今井氏文書)									

尋下 高下 九三	三五八	明治元	明治	一月 相樂總三、官軍嚮導隊と稱し隊士を卒ひて飯田に來り伊那街道を東上す
全	三五八	全	全	二月三日 高松實村、隊士を卒ひて伊那街道東上、片桐にて中食、飯島問屋泊
全	三五八	全	全	二月二十八日 官軍東山道總督岩倉具定の軍下諏訪に宿泊す (松の落葉 千野家文書)
全	三五八	全	全	三月二日 東山道總督の甲州路官軍の嚮導として高遠藩、山吹藩從軍す (岩本順太郎日記)
全	三五八	全	全	三月三日 相樂總三、澁谷總司等下諏訪にて斬罪に處せらる (諏訪史料叢書)
全	三五八	全	全	三月五日 江戸浪士新撰組隊長近藤勇等甲斐に兵をかまえ總督軍と戦ふ此時高島藩、高遠藩は討手兵食掛を命ぜらる

尋下 高下 九七	三五八	明治元	明治	三月八日 飯島陣屋支配地尾州藩へ取締りを仰付らる (飯島村史料)
尋下 高下 九七	三五八	全	全	四月 東山道總督の命に依り高島藩越後口に出兵す(千野家文書 藤森氏文書)
高下 二八	三五八	全	全	六月 諏訪上下社の神宮寺及堂塔を破却す (伊藤主膳御用日記)
尋下 高下 九七	三五八	全	全	八月 飯島陣屋を廢して同所に伊那縣を設置し、名古屋藩取締所々管の外、佐久、小縣、更科、埴科、高井、水内六郡の内、中野、御影中之條三支配地及小諸藩預り地を管す (飯島村史料)
高下 九三	三五八	全	全	九月 高遠藩、諏訪藩會津征討、青山勝藏隊長たり、十一月歸藩す (會津出征記録)
高下 九三	三五八	全	全	十月 伊那縣廳より御布今書を下す (伊那縣御布令書)

高下九三	三五八	明治元	明治	十月 榎本武揚 <small>タカヤマ</small> 等函館に擧兵、樽澤信之輔(南向村)出征總嚮導として奮闘戦死す (鈴木家藏遺品)
高下五九	三五八	全	全	伊那縣學校設立、官吏の子弟及地方有志者の子弟に漢學を教ふ
高下九	三五八	全	全	福澤彌兵衛、尊王愛國の志士 <small>シヤクキ</small> 頼三樹三郎其他同志と交り國事に奔走す (上伊那人名一覽表)
×	三五九	全	全	五月六日 皇學校を高島城柳口に開設す (大日本教育史資料 諏訪家々譜)
尋下二〇七	三五九	全	全	五月 内藤頼直高遠藩の藩籍を奉還す
高下九七	三五九	全	全	六月 内藤頼直高遠藩知事に任命せらる
尋下二〇七	三五九	全	全	七月 内藤頼直高遠縣知事に任命せらる

尋下二〇七	三五九	明治二	明治	八月 伊那縣知事北小路中務大丞、伊那縣上等判事白井逸藏、落合源一郎等任命せらる (伊那縣官員錄)
×	三五九	全	全	十二月 中澤郷民數百人、上納に對する苦情より高遠に上訴隊押寄せる
尋下二〇七	三五〇	全	全	伊那縣廳大屬として渡邊國武任命さる
高下二一三	三五〇	全	全	九月十七日 中野縣設置、伊那縣廳管下北信六郡を割きて管せしむ
尋下二〇八	三五三	全	全	十月 永山盛輝伊那縣大參事に任命せらる
高下二一三	三五三	全	全	十一月 伊那縣廢止、筑摩縣を松本に設置する
尋下二〇八	三五三	全	全	十一月 元伊那縣大參事永山盛輝筑摩縣權參事に任命せらる

尋下一〇八 三五三 明治五 明治 正月 伊那縣役所を筑摩縣に御引越の役人及人足通行、十日一六十八人、馬二十四 十一日一八十八人、馬十五匹 十二日一三十人、馬六匹

尋下一〇八 三五三 全 全 二月八日 山縣狂介高島城請取の爲諏訪に入る (諏訪家文書)

尋下一〇八 三五三 全 全 二月 伊那郡を分ちて二十一區とす (筑摩縣布告)

尋下一〇八 三五三 全 全 四月九日 名主を廢して戸長を置く (筑摩縣布告)

飯島御支配御代官之次第

(宮下正岑演書による)
(安政迄)

- 一、寛文十一年亥年迄 脇坂中務小彌御領地
- 一、寛文十二年子年より天羽七郎左衛門御代官所に初て成る
- 一、延寶元丑年より設樂準右衛門 辰年迄四ヶ年
- 一、延寶五己年より 設樂太郎兵衛 貞享四年卯年迄十一ヶ年
- 一、元祿元辰年 瀧野十右衛門
- 一、元祿二己年より 太田作之進 同十一宣年迄十ヶ年
- 一、同十二卯年 高谷太郎兵衛 正徳二辰年迄十四ヶ年
- 一、正徳三己年より 都築小三郎 享保元申年迄四ヶ年 高四萬石餘り
- 一、享保二年より 都築藤十郎 享保六丑年迄五ヶ年
- 一、享保七寅年より 大草太郎左衛門 享保十四年迄八ヶ年 高七萬石餘
- 一、同十五戌年より十七子年迄三ヶ年(松平九郎右衛門、思室新五右衛門) 御預り所 高辻八萬石
- 一、享保十八丑年より 大草太郎左衛門 延享四卯年迄十五ヶ年 高三萬四千八百五拾二石餘
- 一、延享四卯八月より 淺岡彦四郎御預り所壹ヶ年 高同斷

- 一、寛延元辰年より 大草太郎左衛門 高同斷
- 一、同二巳年より 嶋三郎左衛門 寶曆三子九月迄 此の時下モ筋福與附より分る、更科郡鹽停？迄 五千二百五拾石餘、飯島附高辻二萬八千六百十六石餘 但同年九月より十二月迄右飯島附大草太郎左衛門御預り御影新田御役所附佐久郡小縣郡共高四萬餘
- 一、寶曆三酉十二月より 布施源一郎 同十三未年迄十一ヶ年
- 一、同十三未八月より 今井平三郎 高三萬七千三百石餘
- 一、明和三戌年十月より 嶋集人
- 一、明和九年八月より 竹垣庄藏、臼井吉之丞御預り地となる
- 一、安永四未六月より 武嶋左兵衛 高五萬五千石餘
- 一、同七戌十二月より 平岡彦兵衛 此年中、中野條に御役所設立
- 一、天明七未六月より 鈴木薪吉 高五萬六千四百二十四石餘
- 一、寛政二戌十一月より 水谷祖右衛門
- 一、同五丑九月より 川嶋平右衛門 常分御預り所成
- 一、同六寅年より 簀笠之助
- 一、同七卯五月より 野田松三郎

- 一、文化元子十一月より 小野田三郎右衛門 高四萬二千九百一石餘
- 一、同十酉年十月より 山田茂右衛門 高三萬四千石、領内高三千四百石 領赤須六ヶ村 文政三辰三月 松本御預り所成る（常陣屋 内山半平、宮原武平次、内山辰三郎 中途にて交代 竹川勢右衛門、吉田左五郎、柿沼祐次郎）
- 一、文政四己年より 伊奈友之助 高三萬三百三拾二石二斗五升五合 此節常陣屋詰泰經右衛門之目論見にて、御役所御本陣建替金百七拾兩にて大工當町佐十郎更春、六月建前、九月棟上皆成就之處、御代官霜月下旬御取替
- 一、文政六未十月交代、羽倉下記 高同斷 同十三寅年 下條之中十七ヶ村（高二千五百石餘）阿嶋御預り所成る
- 一、天保二卯年七月廿四日交代、岸本武太夫 高二萬七千石餘 同四己年八月十七日夜 佐藤東平長屋より出火、文政中新規立替之分不殘燒失、今年天明己年以來之凶作にて御代官御檢見にて五分以上御引下る
- 一、天保十一年 池田岩之丞 高同斷、内高七千石白奥州白河領と成る
- 一、嘉永元年 寺西直次郎 高同斷 御門長屋より出火、御役所廓の内不殘燒失
- 一、全四亥年 大草太郎左衛門 全七寅年 阿嶋御預り所二千石餘當御支配所成る

安政三辰三月廿一日九ツ時 南町より出火、町並に御陣屋迄不殘燒失

一、安政五年八月卅日交代、山内甚五左衛門 高二萬六千三百五石

當陣屋詰 中村忠右衛門、御取締 大泉進作、御書役 三枝森三郎

一、文久元辛酉年交代、今川要作御支配 高一萬五千六百三十五石八升六合五勺八才

一、文久三癸亥年八月より四ヶ月間 松平丹波守家臣、黒川嘉兵衛御支配 高同斷

一、全年十一月 松本城主松平丹波守光則預り所なる、詰役野末三重郎

一、慶應三丁卯年七月 御料所代官大竹庫三郎の支配となる 高壹萬四千九百七拾壹石三斗壹合五勺八才

一、明治元戊辰年三月八日(慶應四年九月八日改元) 尾州御取締議定尾張大納言御内、高野瀬長左衛門

より左の觸書あり 役所詰役三谷謙藏

今度依

朝命伊那郡飯島陣屋附支配所舊幕府領、高壹萬四千九百七拾壹石三斗壹合五勺八才、村數三十六ヶ
村尾州へ御取締被仰出候條可得其意候右に付何によらず飯島町御取締御役所へ可訴出者也

慶應四年三月八日

議定尾州大納言殿御内

高野瀬長左衛門

信州伊那郡

石曾根村、飯島町始三十六ヶ村
名主、組頭、惣百姓

一、全年八月 伊那縣を置き従前名古屋藩取締所々管の外に佐久、小縣、更科、埴科、高井、水内の六
那の中中野、御影、中之條三支配地及小諸藩預り地を管す

一、全年十月四日 飯島出張尾州藩三谷謙藏より郷村渡濟となり、翌五日『伊那縣御役所の名を其方共
村々今般當御役支配被仰出候條可存其意候云々』の旨を達す、時に伊那縣知事北小路中務大丞、判
縣事白井逸藏、落合源一郎、大野圖南太郎、權判縣事村松之三、書記小幡大和、青島能登

一、同二己巳年 郡中よりの建白を採用し伊那縣學校を設立し、郡中五十一ヶ村の重立者に學校世話役
を申付

一、同年六月廿四日 從來管地の外名古屋藩取締所の所管松代藩預り地、及旗本水野氏以下四氏の朱地
を併す

一、同三庚午年 (本縣廳) 知事從五位北小路中務大丞、大江俊昌 大參事落合源一郎(直亮) 准少參
事松野篤、同安井讓以下二十三人 (飯島局) 准少參事渡邊政正以下九人 (鹽尻局) 准少參事矢
野清輝、准大屬藤田一郎以下七人 (中野條局) 准少參事村松知之以下七人 (中野局) 准少參事
下方貞豊、權大屬小池國武(子爵渡邊國武)以下九人 (御影局) 准少參事平松武雄以下六人

(足助局) 准少參事正木徳、權大屬犬塚成徳以下九人

一、同年九月十七日 中野縣を置き北部六郡中、伊那縣の管下にあるものを割きて之を管せしむ

一、辛未年 大參事高石和道、參事松野篤

一、同年十月 大參事永山盛輝

一、同年十一月 左の令下る

筑摩縣 〔飛彈國一圓と信濃國筑摩郡、諏訪郡、伊那郡、安曇郡

長野縣 〔信濃國埴科郡、水内郡、更科郡、高井郡、佐久郡、小縣郡

任筑摩縣權參事

元伊那縣大參事 永山盛輝

右宜下候事

辛未十年一月二十日

太政官

右之通被仰出候得共意末々迄無洩可申聞者也

未十一月二十四日

元伊那縣廳

一、同年十二月 左の達あり

縣廳印向後筑摩縣印章相用候條此段爲心得相達候也

未十二月五日

元伊那縣改筑摩縣廳

昭和十年二月十日印刷
昭和十年二月十五日發行

伊那郷土史年表
〔非賣品〕

編輯者 飯島小學校尋常科五學年學年會

發行者 飯島小學校

右代表者 牧田潤

内納
務本
省濟

印刷者 長野縣上伊那郡赤穂村大字赤穂二、〇八九番地 春日三男

印刷所 長野縣上伊那郡赤穂村大字赤穂二、〇八九番地 春日印刷所

終

